

令和 6 年度版『小学社会 6』年間指導計画・評価計画(案)

大単元 1	ともに生きる暮らしと政治	配当時間 21 時間	教科書 6 P8～63
-------	--------------	------------	----------------

目 標

- 日本の政治の考え方と働きについて理解するとともに、統計などの各種資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身につけるようにする。
- 日本国憲法の考え方や日本の政治の特色と国民生活との関連や意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を考え、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
- 日本の政治の考え方と働きについて、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、日本の将来を担う国民としての自覚を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・日本国憲法は国家の理想、天皇の地位、国民としての権利及び義務など国家や国民生活の基本を定めていることや、現在の日本の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていること、立法、行政、司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることを理解している。 ・国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方のもと、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解している。 ・見学・調査したり各種の資料で調べたりして、まとめている。	・日本国憲法の基本的な考え方に着目して、日本の民主政治を捉え、日本国憲法が国民生活に果たす役割や、国会、内閣、裁判所と国民との関わりを考え、表現している。 ・政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、国や地方公共団体の政治の取組を捉え、国民生活における政治の働きを考え、表現している。	・日本国憲法の考え方に基づく国のあり方や政治の仕組みについて、主体的に問題解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。



○の中の数字は、配当時

小単元 1	憲法とわたしたちの暮らし	配当時間 11 時間	教科書 6 P6～33
-------	--------------	------------	----------------

目 標

- 日本国憲法の考え方と憲法に基づく政治の働きについて理解するとともに、統計などの各種資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身につけるようにする。
- 日本国憲法の考え方や憲法に基づく政治の特色、国民生活との関連や意味を多角的に考える力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
- 日本国憲法の考え方と憲法に基づく政治の働きについて、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・日本国憲法の基本的な考え方について見学・調査したり各種の資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、日本の民主政治について理解している。 ・調べたことを図表や文などにまとめ、日本国憲法が国家や国民生活の基本を示していることや政治は憲法の基本的な考え方に基づいており、立法、行政、司法がそれぞれの役割を果たしていることを理解している。	・日本国憲法の基本的な考え方に着目して、問いを見いだし、日本国憲法と政治や国民生活とのつながりについて考え、表現している。 ・日本国憲法の考え方や国会、内閣、裁判所と国民生活を関連づけて、日本国憲法が国民生活に果たす役割や、国会、内閣、裁判所と国民との関わりを考え、表現する。	・日本国憲法の考え方に基づく国のあり方や政治の仕組みについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ・学習したことをもとに、国民としての政治への関わり方について多角的に考えようとしている。

大単元名：１　ともに生きる暮らしと政治

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現

(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
オリエンテーション オリンピック・パラリンピックから学び、社会を考える P8～11 【配時 1】	オリンピックやパラリンピックの歴史や参加している選手の思い、オリンピック憲章について調べ、その意義を考え、表現する。	○資料からオリンピック・パラリンピックの意義を話し合い、平和な世界の実現がオリンピックの理念となっている意義や多様な人々が活躍する社会について考える。	①写真や資料を見て、オリンピック・パラリンピックの歴史をつかむ。 ②「山崎悠麻選手の話」からパラリンピックの意義について考える。 ③オリンピックやパラリンピックの意義について考える。	【思判表】オリンピック・パラリンピックの背景やスポーツを通して互いに理解し合い、平和な世界を実現しようとするものの意義について考え、表現している。(発)(ノ)

小単元：１ 憲法とわたしたちの暮らし 【配当 11 時間】

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現

(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
だれもが使いやすいまちに P12～13 【配時 1】	バリアフリー設備を調べ、日本国憲法や法律の役割を考え、表現する。	○公共施設のバリアフリー設備について調べ、それらを整備する根拠となっている日本国憲法について考える。 ◆公共施設は、さまざまな人が使いやすいようにつくられており、それは、日本国憲法の考え方に基づく法律に従って行われていること。	①「山崎選手の話」から公共施設は誰もが利用しやすいように設備が整えられていることに気づく。 ②バリアフリー設備は、日本国憲法の考え方に基づく法律が根拠となっていることを捉える。 ③日本国憲法が自分たちの暮らしとの関係していることについて考える。	【思判表】バリアフリー設備などから疑問をもち、日本国憲法と暮らしとの関係について考え、表現している。 (発)(ノ)
国のあり方を示す日本国憲法 P14～15 【配時 1】	日本国憲法前文を読み取り、憲法の基本的な考え方について考え、表現する。	○日本国憲法はどのようなものかを調べ、憲法前文を読み取り、三つの原則の意味について考える。 ◆日本国憲法には、国民主権・基本的人権の尊重・平和主義の三つの原則があること。	①日本国憲法とはどのようなものかを調べる。 ②日本国憲法前文の中から、憲法の基本的な考え方につながる部分を読み取る。 ③日本国憲法前文から読み取ったことについて話し合う。	【思判表】日本国憲法前文から憲法の基本的な考え方について考え、表現している。 (発)(ノ)
学習問題をつくり、学習計画を立てよう P16～17 【配時 1】	日本国憲法の三つの原則に着目して、憲法が国民生活に果たす役割についての学習問題をつくり学習の見通しを立てる。	○日本国憲法の考え方と暮らしとのつながりについて話し合い、日本国憲法はどのようなものかについて学習問題をつくり、学習計画を立てる。	①日本国憲法の三原則と暮らしとのつながりについて話し合い、学習問題をつくる。	【思判表】日本国憲法について問いを見いだし、学習問題として表現している。(発)(ノ) 【態】学習問題について予想や学習計画を立て主体的に問を追究しようとしている。 (発)(行)(ノ)
	学習問題 日本国憲法は、どのようなものなのだろう。			
			②学習問題に対する予想を出し合う。 ③予想をもとに、学習問題を解決していくための方法(調べること・調べ方・まとめ方)について見通しをもつ。	
国の主人公はわたしたち国民 P18～19 【配時 1】	国民主権や天皇の地位と役割について調べ、日本の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることを捉える。	○国民主権の意味や内容、天皇の地位と役割について調べ、国民主権と国民生活のつながりについて考える。 ◆国の政治のあり方を決めるのは国民で、選挙権は国民主権の代表的な例であること。天皇は日本国の象徴であり、政治についての権限はもたないこと。	①選挙権や不在者投票、期日前投票の制度を事例に、国民主権の意味と具体的な内容を調べる。 ②天皇の地位や役割について調べる。 ③国民主権と国民とのつながりについて考える。	【知技】政治のあり方を決めるのは国民一人一人であるという国民主権の意味や内容を理解している。(発)(ノ)

すべての人が 幸せに生きるた めに P20～21 【配時 1】	基本的人権について 調べ、日本国憲法が 国民の権利や義務な どを定めていること を捉える。	○基本的人権の意味や内容を調 べ、基本的人権がどのように守 られているかを考え、話し合 う。 ◆日本国憲法には、すべての国 民は健康で文化的な生活を送る 権利があることがうたわされて いること。	①憲法の条文から、基本的人 権の意味を調べる。 ②憲法に定められた国民の権 利と義務について調べ、暮ら しとのつながりについて考え る。 ③社会の中の諸問題を調べ、 基本的人権がどのように守ら れているか話し合い、考えた ことをまとめる。	【知技】基本的人権が尊重さ れることによって、すべての 国民が人間らしく暮らすこ とができることを捉えている。 (発) (ノ)
平和を守る P22～23 【配時 1】	平和主義について調 べ、日本国憲法が過 去の歴史的背景か ら、決して外国と戦 争をしないと定めて いる意味を捉える。	○平和主義の背景や内容を調 べ、平和を守るために大切なこ とを話し合う。 ◆日本国憲法は、平和主義をか かげ、外国と決して戦争をしな いこと、そのための武力をもた ないことを定めていること。	①憲法の条文や教科書から、 平和主義の背景や内容を調べ る。 ②平和を守るための取り組み を調べ、平和を守るために大 切なことを話し合う。	【知技】日本国憲法が決して 外国と戦争をしないと定め、 歴史に学び平和な社会を実 現しようとしていることを 捉えている。(発) (ノ)
国会のはたらき P24～25 【配時 1】	国会や選挙の仕組 みを調べ、その役割 を捉える。	○国会の働きや選挙の仕組みを 調べ、その役割について考え る。 ◆国会は、国民の暮らしに関わ る法律や予算について話し合い 決めていることや、国民が選挙 によって国会議員を選ぶこと で、国民の考えを政治に反映さ せていること。	①国会の役割や法律ができる までの流れを調べ、二つの議 院で話し合う理由を考える。 ②選挙の仕組みを調べ、選挙 を行う理由を考える。 ③国会の働きと国民の暮らし がどのように関わっているの かを話し合う。	【知技】国会や選挙の役割を 理解している。(発) (ノ)
内閣のはたらき P26～27 【配時 1】	内閣の仕組みを調 べ、その役割を捉え る。	○内閣の仕組みや働きについて 調べ、その役割について考え る。 ◆内閣は、国会で決めた予算を 使って、国民の暮らしを支える 仕事をしていることや、内閣の もとには、さまざまな府・省・ 庁が置かれ、分担して仕事を進 めていること。	①内閣の主な仕事や仕組みを 調べる。 ②主な府・省・庁の働きを調 べる。 ③内閣の働きと国民の暮らし がどのように関わっているの かを考える。	【知技】内閣の役割を理解し ている。(発) (ノ)
裁判所のはた らき P28～29 【配時 1】	裁判所の仕組みを調 べ、その役割や、立 法、行政、司法の三 権がそれぞれの役割 を果たしていること を捉える。	○裁判所の仕組みや働き、裁判 員制度、三権分立について調 べ、その役割や意義について考 える。 ◆裁判所は、争いごとや犯罪が 起きたときに解決や判断をして いることや、国民は裁判員制度 を通して裁判に参加しているこ と。国の政治は、三権分立の仕 組みのもとで進められているこ と。	①裁判所の仕組みや働きを調 べる。 ②裁判員制度について調べ る。 ③裁判所の働きと国民の暮らし がどのように関わっている のかを考える。 ④三権分立について調べ、図 に整理する。	【知技】裁判所の役割、三権 分立の意味について理解し ている。(ノ)

税金のはたらき P30～31 【配時 1】	税金の集められ方や使われ方を調べ、税金の果たす役割や暮らしとの関わりを捉える。	○税金の集められ方や使われ方を調べ、税金の果たす役割について考える。 ◆国が行う仕事には、国民が納める税金が使われていることや、健康で文化的な生活を送るために、税金を納めることは国民の義務であること。	①税金がどのように集められ、どのようなことに使われているのかを調べる。 ②税金と国民の関わりについて話し合う。 ③税金の役割について考え、表現する。	【知技】 税金の役割や暮らしとの関わりを理解している。(発)(ノ)
<まとめる> P32～33 【配時 1】	日本国憲法の基本的な考え方や政治の仕組みについて調べたことを図表などにまとめ、日本国憲法と政治や国民の暮らしとのつながりについて考え、表現する。	○学習してきた日本国憲法の考え方や政治の働きについてまとめ、国民の暮らしと憲法や政治との関わりについて考える。	①学習問題とキーワードを確かめる。 ②日本国憲法の三つの原則について振り返る。 ③暮らしと政治のつながりや三権分立の仕組みについて図に整理する。 ④障害者差別解消法を例に、暮らしと憲法や政治とのつながりについて話し合う。 ⑤国民と政治とのつながりについて説明する。	【思判表】 日本国憲法や政治の働きと自分たちの暮らしを関連づけ、国民と政治の関わりについて考え、表現している。(発)(ノ)(テ) 【態】 学習したことや学び方を振り返り、これからの学習に生かそうとしている。(行)(発)

小単元 2	わたしたちの暮らしを支える政治	配当時間 7 時間	教科書 6 P34～47
-------	-----------------	-----------	-----------------

目 標

- 地方公共団体の政治の働きについて理解するとともに、統計などの各種資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身につけるようにする。
- 地方公共団体の政治の特色や生活との関連や意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を考え、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
- 地方公共団体の政治の働きについて、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、日本の将来を担う国民としての自覚を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどについて見学・調査したり統計などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、地方公共団体の政治の働きについて理解している。 ・調べたことを図表や文などにまとめ、地方公共団体の政治が国民主権の考えのもと、住民の生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解している。	・政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、問いを見いだし、地方公共団体の政治の働きについて考え、表現している。 ・政治の取り組みと住民の生活を関連づけ、地方公共団体の政治の働きや政治と住民の関わりを考え、表現する。	・地方公共団体の政治の働きについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ・学習したことをもとに、国民としての政治の関わり方について多角的に考えようとしている。

小単元名：2 わたしたちの暮らしを支える政治 【配当7時間】

※「わたしたちの暮らしを支える政治」が「災害からわたしたちを守る政治」または「雪とともに生きる暮らしを支える政治」を選択

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現

(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
わたしたちの暮らしと社会の課題 P34～35 【配時1】	年齢ごとに必要な支援や人口構成の変化を調べ、少子化・高齢化や人口減少などの課題を抱える社会における政治の働きの大切さについて考え、表現する。	○資料から年齢とともに必要な支援が変わることや少子化・高齢化、人口減少が進んでいることを読み取り、政治の働きの大切さを考える。 ◆日本では、年齢に合わせて、さまざまな公的支援が行われていること。今後、更に少子化・高齢化が進み、人口減少社会を迎えると考えられること。	①写真を見て、年齢に合わせてさまざまな公的支援が行われていることを捉える。 ②生まれた子どもの数と、人口に占める65才以上の高齢者の割合のグラフを見て、考えたことを話し合う。 ③自分たちの生活を支える政治の働きについて考える。	【思判表】グラフから少子化・高齢化や人口減少が進むことを読み取って疑問をもち、政治の働きの大切さを考え、表現している。(発)(ノ)
人々の暮らしの願い P36～37 【配時1】	身近な地域の様子や住民たちの願いに着目して、人々の願いをかなえるための政治の働きについての学習問題をつくり、学習の見通しを立てる。	○浜松市の人口やまちの様子、さまざまな人々の願いを読み取り、願いを実現する政治の働きについて学習問題をつくり、学習計画を立てる。 ◆住民はさまざまな願いをもっていること。願いの実現や社会の問題の解決のために政治の働きが関わっていること。	①浜松市がどのようなところなのかを調べる。 ②浜松市に住む人々がどのようなことを願っているのかを調べる。 ③住民の願いをかなえ、社会の問題を解決する政治の働きについて、学習問題をつくり、学習計画を立てる。	【思判表】政治の働きについて問いを見いだし、学習問題として表現している。(発)(ノ) 【態】学習問題について予想や学習計画を立て主体的に追究しようとしている。(発)(行)(ノ)
学習問題 人々の願いをかなえ、社会の課題を解決するために、政治はどのようなはたらきをしているのだろう。				
子どもは未来への希望 P38～39 【配時1】	住民の子育てへの願いを調べ、住民の願いをかなえる政治の働きを捉える。	○浜松市が行っている子育て支援の取り組みについて調べ、それらがつくられた目的について考える。 ◆浜松市では、条例や計画に基づいてさまざまな子育て支援の取り組みが進められていることや、それが住民の願いをかなえ、悩みや不安を解消することに役立っていること。	①浜松市が行っている子育て支援の取り組みと「浜松市子ども育成条例」などとの関わりを調べる。 ②「子育て支援ひろば」で働く人の思いや、利用者の声を調べる。 ③人々の願いと政治の働きのつながりについて話し合う。	【知技】浜松市が行っている子育て支援政策から、住民の願いと政治の働きとの関係について捉えている。(発)(ノ)

「子育て支援ひろば」ができるまで P40～41 【配時 1】	市役所や市議会の働きを調べ、住民が選挙を通して政治に関わっていることを捉える。	○「子育て支援ひろば」が実現する過程を調べ、住民が政治にどのように関わっているのかや、市役所や市議会、県や国の果たしている役割をつかむ。 ◆「子育て支援ひろば」は、住民の願いや社会の動きなどを受けて、法律に基づいて、市役所が計画や予算案をつくり、議会の承認や国の補助金を受けて実現したこと。住民は選挙を通して代表を選び、政治の進め方を決めていること。	①「子育て支援ひろば」が実現するまでの流れを調べる。 ②市役所や市議会、県や国の働きを調べる。 ③住民・市役所・市議会の関係を考えて、図や文で表す。	【知技】「子育て支援ひろば」が実現するまでの流れから、市役所や市議会の働きや住民の政治との関わり方を捉えている。(発)(ノ)
たがいに助け合う社会 P42～43 【配時 1】	浜松市の高齢者福祉事業の取り組みを調べ、誰もが安心して生きがいのある生活を送るために政治の働きが必要であることを捉える。	○浜松市の高齢者福祉事業の取り組みを調べ、社会保障の役割や少子化・高齢化、人口減少によって起こる問題について考える。 ◆社会全体で助け合う仕組みとして社会保障があること。少子化・高齢化、人口減少によってさまざまな問題が生じること。	①浜松市が行っている高齢者福祉事業の概要を調べる。 ②社会保障制度について調べ、その役割を考える。 ③少子化・高齢化や人口減少によって起こる問題について考え、話し合う。	【知技】浜松市が行っている高齢者福祉事業や社会保障の働きから、誰もが安心して生きがいのある生活を送るために政治は大切な働きをしていることを捉えている。(発)(ノ)
社会の課題の解決とわたしたち P44～45 【配時 1】	少子化・高齢化、人口減少に対する取り組みを調べ、社会の課題の解決には政治の働きが不可欠であることを捉える。	○少子化・高齢化や人口減少によって起こる問題に対する国や全国の地方公共団体の取り組みを調べ、政治の役割について考える。 ◆少子化・高齢化や人口減少といった社会全体の問題に対して、国や地方公共団体が解決に向けた取り組みを行っていること。	①少子化・高齢化、人口減少によって起こる問題に対する国や全国の地方公共団体の取り組みを調べる。 ②東日本大震災による原子力発電所の事故など社会にはさまざまな問題があることを調べる。 ③社会の課題の解決に向けた政治の役割について話し合う。	【知技】少子化・高齢化や人口減少によって起こる問題に対しての取り組みから、社会の課題の解決には政治の働きが不可欠であることを捉えている。(発)(ノ)
＜まとめ＞ P46～47 【配時 1】	社会の問題を解決し人々の願いを実現する政治の働きについて調べてきたことをまとめて、自分の暮らしと政治の関わりを考え、表現する。	○学習してきた日本社会の問題や人々の願いに対する政治の働きについてまとめ、暮らしと政治の関わりについて考える。	①学習問題とキーワードを確かめる。 ②日本の社会の課題や人々の暮らしの願いを振り返る。 ③人々の願いを実現する政治の仕組みについて図に整理する。 ④自分の暮らしと政治の関係について考え、話し合う。	【思判表】自分たちの暮らしと政治の働きのつながりについて考え、表現している。(発)(ノ) 【態】学習したことや学び方を振り返り、これからの学習に生かそうとしている。(発)

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
くつなげる> わたしたちの暮らしにつながる政治について考えよう P48～49 【配時 2】	子ども議会を開き、まちの課題解決のための提案を考え、話し合うことを通して、自分と政治との関わりについて考え、表現する。	○自分たちのまちの課題を解決するための提案を考え、子ども議会を開いて提案について話し合うことを通して、自分がこれからどのように政治に参加していくかを考える。 ◆市のまちづくりの課題は多様で、国民の権利を生かしていくためには、さまざまな立場の人が積極的に政治に参加することが重要であること。	①若者議会の事例から、どのようにして子ども議会を行うかをつかむ。 ②まちにどのような課題があるかを調べ、それを解決するための提案を考える。 ③子ども議会の議員になって議会を開き、まちづくりに関する提案について話し合う。 ④国会議員の選挙の投票率が低いことを調べ、これから自分がどのように政治に参加していくかを考え、ノートにまとめる。	【思判表】市の政治について考え、子ども議会で提案したことをもとに、政治参画することの大切さについて考え、表現している。(発)(ノ) 【態】国民主権の考え方や政治と暮らしとのつながりなどの学んだことを、これからの自分たちの政治参画に生かそうとしている。(発)(行)

せんたく：2 災害からわたしたちを守る政治 【配当-時間】

※「わたしたちの暮らしを支える政治」か「災害からわたしたちを守る政治」または「雪とともに生きる暮らしを支える政治」を選択

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現

(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
突然の大地震 と津波 P50～51 【配時一】	東日本大震災による被害や被災した人々の願いに着目して、政治の働きについて学習問題をつくり、学習の見通しを立てる。	○東日本大震災による被害を調べ、被災者の願いを想像し、願いをかなえる政治の働きについて学習問題をつくり、学習計画を立てる。 ◆東日本大震災が起こり、東北地方を中心とした地域の人々が大きな被害を受けたこと。	①写真などから東日本大震災の被害の状況を調べる。 ②被災した人々の願いを考える。 ③人々の願いをかなえる政治の働きについて学習問題をつくり、学習計画を立てる。	【思判表】東日本大震災の被害から、問いを見だし、学習問題として表現している。 (発)(ノ) 【態】学習問題について予想や学習計画を立て主体的に追究しようとしている。(発)(行)(ノ)
学習問題 災害によって大きな被害を受けた人々の願いを実現するために、政治はどのようなはたらきをしているのだろう。				
緊急の支援 P52～53 【配時一】	被災地に対する支援を調べ、災害で被害を受けた国民の生活を守る政治の働きを捉える。	○被災した人々に対して、どのような緊急の支援が行われたのか、それはどのような仕組みによって実現したのかを調べる。 ◆被災した人々の命と安全を守るために、釜石市は国や県、他の市町村に支援を要請し、さまざまな機関が協力しながら支援活動を行ったこと。	①釜石市が受けた被害を調べる。 ②被災した人々のために市や県、国などが行った緊急の支援を調べる。 ③被災地に対する支援の仕組みを調べる。 ④人々の願いと政治の働きのつながりについて話し合う。	【知技】被災地に対する支援から、災害で被害を受けた国民の生活を守るための政治の働きを捉えている。(発)(ノ)
復興に向けて動き出す P54～55 【配時一】	市役所や市議会の働きを調べ、復興を進めるための政治の働きを捉える。	○釜石市で行われてきた復興への取り組みや計画づくりについて調べ、復興を進めていくうえで大切なことを考える。 ◆釜石市では住民の意見を生かしながら復興まちづくり計画がつくられ、復興に向けた取り組みが行われていること。取り組みは、法律や条例に基づいて行われ、税金が使われていること。	①港の改修、仮設校舎の建設など、復興への取り組みを調べる。 ②「復興まちづくり基本計画」がつくられるまでの過程を調べる。 ③復興を進めるために国が整えた制度を調べる。 ④復興を進めていくうえで大切なことを考える。	【知技】市役所や市議会の働きから、住民の願いをもとに復興を進めていくための政治の仕組みや働きを捉えている。(発)(ノ)

命を守るまちづくり P56～57 【配時一】	釜石市の災害に強いまちづくりを調べ、市や県、国による政治は、復興を進めるうえで大切な働きをしていることを捉える。	○復興に向けて行われた事業や継続して行われている取り組みを調べ、災害に強いまちづくりを行うために大切なことを考え、話し合う。 ◆災害に強いまちづくりを行うためには、市・県・国による取り組み（公助）とともに、地域の助け合い（共助）や自分や家族を守る取り組み（自助）も大切であること。	①復興に向けての防波堤再建や高台移転などの事業について調べる。 ②災害から自分たちの命や暮らしを守るためには何が必要かを考え、話し合う。 ③災害に強いまちづくりを行うために大切なことを考える。	【知技】災害に強いまちづくりを行うための取り組みを調べ、復興を進めるうえでの市や県、国による政治の働きを捉えている。（発）（ノ）
---------------------------------------	---	---	---	---

せんたく：2 雪とともに生きる暮らしを支える政治 【配当-時間】

※「わたしたちの暮らしを支える政治」が「災害からわたしたちを守る政治」または「雪とともに生きる暮らしを支える政治」を選択

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現

(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
まちで暮らす 人々の願い P58～59 【配時一】	地域の様子や住民たちの願いに着目し、人々の願いをかなえ地域の問題を解決するための政治の働きについての学習問題をつくり、学習の見通しを立てる。	○札幌市の気候の特徴によって起こる問題に対する人々の願いを読み取り、願いを実現する政治の働きについて学習問題をつくり、学習計画を立てる。 ◆住民は降雪によって起こる問題に対して願いをもっていること。願いの実現や地域の問題の解決のためには、政治の働きが必要であること。	①冬の札幌市の写真やグラフなどから札幌市の気候の特徴を読み取る。 ②降雪によって起こる問題に対して人々がどのような願いをもっているのかを調べる。 ③住民の願いをかなえ、地域の問題を解決する政治の働きについて学習問題をつくり、学習計画を立てる。	【思判表】冬の札幌市の様子から、問いを見だし、学習問題として表現している。 (発)(ノ) 【態】学習問題について予想や学習計画を立て主体的に追究しようとしている。(発)(行)(ノ)
学習問題 人々の願いをかなえ、社会の課題を解決するために、 政治はどのようなはたらきをしているのだろう。				
雪対策で暮らしが変わった P60～61 【配時一】	札幌市が行っている雪対策事業の概要を調べ、計画的な除排雪によって、住民の暮らしを守る市役所の役割を捉える。	○札幌市が行っている雪対策の取り組みについて調べ、住民の政治への関わりや、市や道、国の果たしている役割を捉える。 ◆札幌市では、冬の暮らしへの悩みや不安を解消するため、雪対策の取り組みが進められていること。市役所が計画や予算案をつくり、国の法律に従い、道や国からの補助金も使用して除排雪を実施していること。	①札幌市が行っている雪対策の取り組みを調べる。 ②除排雪の実施に関わる市や道、国の働きを調べる。 ③除排雪などの雪対策へ住民がどのように関わっているかについて話し合う。	【知技】問題の解決のために、住民の意思に基づいて政治が進められていること、そのために市役所や市議会が重要な役割を担っていることを理解している。(発)(ノ)
雪を生かす P62～63 【配時一】	「さっぽろ雪まつり」の発展やどのようにして行われているかを調べ、市役所の役割をつかみ、住民は意見を出したり、選挙で投票したりすることを通して政治に関わっていることを捉える。	○「さっぽろ雪まつり」の発展やどのようにして行われているかを調べ、住民の政治への関わり方や、市役所の役割をつかむ。 ◆「さっぽろ雪まつり」は、住民の願いや地域の特徴などを背景に、市役所が計画や予算案をつくり、関係機関や民間企業の協力を受けて実現したこと。住民は選挙を通して代表を選び、政治の進め方を決めていること。	①「さっぽろ雪まつり」が現在のような行事になるまでの流れを調べる。 ②「さっぽろ雪まつり」を開催するための市役所の働きを調べる。 ③住民・市役所・民間企業・関係機関の関係を考えて、表現する。	【知技】地域を活性化するために、市役所は住民の意見をふまえて計画を立てていること、住民は予算案を議決する市議会の議員を選挙で選んでいることを理解している。(発)(ノ)

大単元 2	日本の歴史	配当時間 69 時間	教科書 6 P68～237
-------	-------	------------	------------------

目 標

- 国家および社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産について理解するとともに、地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身につけるようにする。
- 日本の歴史の特色、出来事や人物の関連や意味を多角的に考える力、各時代の社会に見られる課題を把握して、歴史を学ぶ意味を考える力、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
- 日本の歴史上の主な事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、日本の歴史や伝統を大切にして国を愛する心情を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 日本の歴史上の主な事象を手掛かりに、大まかな歴史を理解するとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解している。 ・ 遺跡や文化財、地図帳や年表などの資料で調べ、まとめている。	・ 各時代の世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、歴史上の主な事象を捉え、日本の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現している。	・ 日本の歴史上の主な事象について、主体的に問題解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。

オリエンテーション ①

1 国づくりへの歩み ⑦

大昔の暮らしをさぐる／学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう／米づくりが始まる／むらからくへ／古墳をつくった人々／古墳の広がり／大和朝廷／まとめる

2 大陸に学んだ国づくり ⑦

大陸にわたった人々／聖徳太子の理想／大化の改新と新しい政治のしくみ／聖武天皇と大仏づくり／海をこえた人やもの／藤原道長と貴族の暮らし／日本独自の文化が生まれる（まとめる）

3 武士の政治が始まる ④

武士が現れる／源氏と平氏が戦う／幕府を開いた源頼朝／元との戦い（まとめる）

4 室町文化と力をつける人々 ④

室町時代に生まれた文化／簡素で静かな美しさ／今も受けつがれる室町文化／産業の発達と力をつける人々（まとめる）

5 全国統一への動き ⑤

戦国の世の中／全国統一を目指した織田信長／全国を統一した豊臣秀吉／江戸幕府を開いた徳川家康（まとめる）

6 幕府の政治と人々の暮らし ⑤

江戸を目ざす行列／江戸幕府と大名／人々の暮らしと身分／鎖国への道／鎖国のもとでの交流（まとめる）

7 新しい文化と学問 ⑥

都市のにぎわいと人々の楽しみ／活気あふれる町人の文化／今につながる江戸の文化／文化を支えた産業と交通／新しい学問／人々と学問、新しい時代への動き（まとめる）

8 明治の新しい国づくり ⑥

新しい世の中へ／黒船が来た／江戸幕府がたおれる／新政府による国づくりの始まり／欧米の国々に追いつけ／人々の暮らしが変わった（まとめる）

9 近代国家を目ざして ⑨

ノルマントン号事件と条約改正／学習問題をつくり、学習計画を立てよう／自由民権運動が広がる／国会が開かれる／日清・日露の戦い／日露戦争後の日本と世界／産業の発展と世界で活躍する人々／暮らしと社会の変化／まとめる

10 戦争と人々の暮らし ⑦

戦火に焼けた日本／中国との戦争が始まる／アジア・太平洋に広がる戦争／戦争と人々の暮らし／子どもたちと戦争／おそいかかる空襲／沖縄・広島・長崎、そして敗戦（まとめる）

11 平和で豊かな暮らしを目ざして ⑥

焼けあとからの出発／もう戦争はしない／日本の独立と国際社会への復帰／東京オリンピック・パラリンピックが開かれる／産業の発展と国民生活の変化／これからの日本とわたしたち（まとめる）

つなげる

歴史を学ぶ意味を考え、未来につなげよう ②

○の中の数字は、配当時数。

小単元 1	国づくりへの歩み	配当時間 7 時間	教科書 6 P78～93
-------	----------	-----------	-----------------

目 標

- 大昔の日本でむらからくにへと変化したことについて理解するとともに、遺跡や文化財、地図帳や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身につけるようにする。
- 縄文時代、弥生時代、古墳時代の特色、出来事や人物の関連や意味を多角的に考える力、その時代の社会に見られる課題を把握して、歴史を学ぶ意味を考える力、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
- 大昔の日本の暮らしについて、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、日本の歴史や伝統を大切に国を愛する心情を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、遺跡や文化財、地図帳や年表などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷による統一の様子を理解している。 ・調べたことを年表や図表などにまとめ、むらからくにへと人々の生活が変化したことを理解している。	・世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見いだし、狩猟・採集や農耕の生活、古墳の様子、大和朝廷による統一の様子について考え、表現している。 ・狩猟・採集や農耕など人々の生活の様子、古墳の広がり、国家の統一の様子を関連づけたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。	・狩猟・採集や農耕の生活の変化について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

大単元名：2 日本の歴史

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現

(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
オリエンテーション 人々の願いの今と昔 P68～71 【配時 1】	選挙権の変化を調べて、過去から現在までに社会は変わってきたことを考え、表現する。	○「期日前投票の投票所に並ぶ人々」と「選挙で投票するために人々」の写真を比べたり、選挙権をもつ人の割合の変化を調べたりして、社会の仕組みが変わってきたことをつかむ。	①「期日前投票の投票所に並ぶ人々」と「選挙で投票するために並ぶ人々」の写真を比較して、約 100 年前は女性が選挙権をもっていなかったことをつかむ。 ②選挙権をもつ人の割合の変化から、選挙の仕組みが変化してきたことを調べる。 ③社会の仕組みが変化してきたことをつかみ、自分たちの暮らす社会がどのようにつくられてきたのかに関心をもつ。	【思判表】写真を比較し、約 100 年前から現在までの社会の変化について考え、表現している。(発)(ノ)

小単元名：1 国づくりへの歩み 【配当7時間】

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現

(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
大昔の暮らしをさぐる P78～81 【配時1】	想像図を読み取ったり出土物などを調べたりして、縄文時代の暮らしの様子を捉え、弥生時代の様子と比較して、暮らしの変化を考え、表現する。	○「狩りや漁をしていたころの様子」と「米づくりが広まったころの様子」の想像図を読み取ったり、比較したりして、気づいたことや疑問点について話し合う。 ◆大昔の人々が、狩りや漁、採集を行って暮らしていたことや、そうした暮らしの様子が変化していったこと。	①「狩りや漁をしていたころの様子」の想像図から、人々がどのような暮らしをしていたのかを読み取る。 ②P78の写真や記述から、当時の人々の暮らしについて調べる。 ③「米づくりが広まったころの様子」の想像図から、人々がどのような暮らしをしていたのかを読み取る。 ④2枚の想像図を比較して、何が変わっているかを話し合い、それはなぜかを予想する。	【思判表】想像図を比べて、その違いから、疑問をもち、人々の暮らしの変化やその要因を考え、表現している。 (発)(ノ)
学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう P82～83 【配時1】	2枚の想像図の読み取りからわかったことや疑問点に着目し、大昔の人々の暮らしの変化について学習問題をつくり、学習の見通しを立てる。	○2枚の想像図の読み取りから、大昔の人々の暮らしの変化について学習問題をつくり、学習計画を立てる。	①2枚の想像図の読み取りからわかったことや考えたこと、知りたいことを話し合い、学習問題をつくる。	【思判表】人々の暮らしの変化について問いを見だし、学習問題として表現している。(発)(ノ) 【態】学習問題について予想や学習計画を立て主体的に追究しようとしている。(発)(行)(ノ)
学習問題 大昔の人々の暮らしは、どのように変わっていったのだろう。				
			②学習問題に対する予想を出し合う。 ③予想をもとに、学習問題を解決していくための方法(調べること・調べ方)について見通しをもつ。	

米づくりが始まる P84～85 【配時 1】	想像図を読み取ったり米づくりに使われた道具などを調べたりして、農耕による人々の暮らしの変化を捉える。	○米づくりの様子の想像図や、田げたや石包丁などの写真から、この時代の米づくりの方法や作業の特徴をつかみ、米づくりにによってどのように暮らしが変わったのかを考える。 ◆米づくりが始まって、人々は集まって定住し、共同で作業を行うようになったこと。	①米づくりの様子の想像図や田下駄、石包丁などの写真から、この時代の米づくりの方法や作業の特徴をつかむ。 ②米づくりによって、人々の暮らし方がどのように変わったのかを考える。 ③米づくりが始まったことで、人々の暮らしにどのような変化が現れたのかをまとめる。	【知技】想像図や写真などから、農耕による生活の変化について捉えている。(発)(ノ)
むらからくへ P86～87 【配時 1】	吉野ヶ里遺跡の様子などを調べ、むらからくへへと変化していく社会の動きを捉える。	○吉野ヶ里遺跡やその出土品、邪馬台国などについて調べ、むらからくへへと移り変わった頃の社会の変化をつかむ。 ◆米づくりが定着すると、むらの規模に差が生じ、争いも生まれてきたこと。そうした中から、他のむらを従える指導者が王となり、くにがつくられるようになったこと。	①吉野ヶ里遺跡の写真やその出土品などから、大規模な集落が生まれた頃の様子を読み取る。 ②どのようにしてむらからくへへと移行したのか、それに伴ってどんな変化があったのかについて考える。 ③邪馬台国のコラムなどから、王に率いられたくにの様子をつかむ。	【知技】吉野ヶ里遺跡の様子や出土品などから、米づくりがさかんになったことで人々の暮らしや社会の様子が変化していったことを捉えている。(発)(ノ)
古墳をつくった人々 P88～89 【配時 1】	古墳がつくられる様子を想像図から読み取り、豪族の権力の大きさを捉える。	○大仙古墳の写真や「古墳づくりの様子」の想像図から、古墳造営に大勢の人や大量の物資、高度な技術が必要であることをつかみ、豪族の力の大きさや大陸から伝わった技術の果たした役割を考える。 ◆各地で強い勢力をもつ豪族が現れたこと。巨大古墳は、大きな力や富、大陸の進んだ技術を用いてつくられたこと。	①大仙古墳の大きさを調べ、身近なものと比較するなどして規模を実感する。 ②想像図から、大勢の人々がさまざまな作業に取り組んでいることを読み取る。 ③古墳造営の困難さについて話し合い、誰が、どのような目的でこのような古墳をつくったのかを考える。 ④古墳造営に必要な高度な技術が、渡来人によって伝えられたことをつかむ。	【知技】古墳造営を行った豪族の権力の大きさや大陸とのつながりを捉えている。(発)(ノ)

古墳の広がり と大和朝廷 P90～91 【配時 1】	大和朝廷と地方豪族の 関係を調べ、国土が統一 されていったことを 捉える。	○前方後円墳の分布や出土品 を調べ、朝廷の支配の広がり や朝廷と各地の豪族との関係を 考える。 ◆強い勢力をもつ豪族たちが連 合して大和朝廷をつくり、大王 の支配が広い範囲に及ぶよう になったこと。	①前方後円墳の分布や出土し た鉄剣・鉄刀から、広い範囲 に強い勢力をもつ豪族が現れ たことをつかむ。 ②朝廷と各地の豪族との関係 や支配の広がりを考える。 ③「古事記」、「日本書紀」な どに国の形成に対する昔の 人々の考え方が表れているこ とを捉える。	【知技】古墳の分布などを読 み取り、大和朝廷の支配が広 がったことを捉えている。 (発) (ノ)
<まとめる> P92～93 【配時 1】	調べたことをまとめ、 人々の暮らしや関係が 変化したことや国土が 統一されていったこと を捉え、米づくりの広 まりと暮らしや社会の 変化の関係を考え、表 現する。	○学習してきた、縄文時代、弥 生時代、古墳時代の特徴につ いてまとめ、米づくりの広まりと 人々の暮らしや関係の変化か ら、国土が統一されていった様 子を考える。	①学習問題とキーワードを確 かめる。 ②学習してきた三つの時代の 名称や特徴をまとめる。 ③米づくりの広まりと人々の 暮らしの変化のつながりにつ いて考え、図で表現する。 ④大昔の人々の暮らしの変化 について話し合う。	【思判表】米づくりの広まり と人々の暮らしや社会の変 化を関連づけて考え、表現し ている。(発) (ノ) (テ) 【態】学習したことや学び方 を振り返り、これからの学習 に生かそうとしている。(発) (ノ)

小単元 2	大陸に学んだ国づくり	配当時間 7 時間	教科書 6 P94～108
-------	------------	-----------	------------------

目 標

- 天皇を中心とした政治の確立や文化の変化について理解するとともに、遺跡や文化財、地図帳や地球儀、年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身につけるようにする。
- 古代の日本の政治の仕組みや文化の特色、出来事や人物の関連や意味を多角的に考える力、その時代の社会に見られる課題を把握して、歴史を学ぶ意味を考える力、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
- 古代の日本の政治の仕組みについて、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、日本の歴史や伝統を大切にして国を愛する心情を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、遺跡や文化財、地図帳や年表などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営、貴族の生活や文化を理解している。 ・ 調べたことを年表や図表などにまとめ、天皇を中心とした政治が確立し、日本風の文化が生まれたことを理解している。	・ 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見いだし、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営、貴族の生活や文化について考え、表現している。 ・ 大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営、貴族の生活や文化の様子を関連づけたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。	・ 大陸の文化と日本の政治や文化との関係について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ・ 学習したことをもとに長い歴史を経て築かれてきた日本の伝統や文化と今日の自分たちの生活との関わりを考えようとしている。

小単元名：2 大陸に学んだ国づくり 【配当7時間】

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現

(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価基準/評価方法
大陸にわたった人々 P94～95 【配時 1】	遣唐使の派遣に着目し、大陸の文化と日本の国づくりについての学習問題をつくり、学習の見通しを立てる。	○遣唐使について調べ、日本が長期間にわたって使節を送った理由を考え、学習問題をつくり、学習計画を立てる。 ◆日本から中国へ何度も遣唐使が派遣され、使節は命がけの航海をして大陸を目ざしたこと。	①遣唐使船の航海について調べ、多くの困難を乗り越えて大陸を目ざしていたことをつかむ。 ②遣唐使がどのような目的で大陸を目ざしたのか、何を持ち帰ったのかを調べる。 ③日本の国づくりと大陸との関係を考え、この頃の日本の国づくりについて学習問題をつくり、学習計画を立てる。	【思判表】遣唐使船の様子から、問いを見いだし、学習問題として表現している。(発)(ノ) 【態】学習問題について予想や学習計画を立て主体的に追究しようとしている。(発)(行)(ノ)
学習問題 大陸から伝わった政治のしくみや文化は、日本の国づくりにどのように生かされたのだろうか。				
聖徳太子の理想 P96～97 【配時 1】	聖徳太子の考えや太子が行った政治の特色を調べ、天皇中心の国づくりが進められたことを捉える。	○聖徳太子について調べ、どのような国づくりを目ざしていたのか、太子の理想がその後の政治にどのような影響を与えたのかを考える。 ◆聖徳太子が、天皇中心の国づくりを目ざして十七条の憲法や冠位十二階をつくり、大陸から進んだ政治の仕組みや文化を取り入れようとしたこと。	①聖徳太子がどのようなことを行ったのかを調べる。 ②聖徳太子が目ざした国づくりと、大陸の政治や文化との関係を考える。 ③聖徳太子の行った政策によって、政治がどのように変わったか考える。	【知技】聖徳太子が行った政策から、天皇中心の国づくりが進められたことを捉えている。(発)(ノ)
大化の改新と新しい政治のしくみ P98～99 【配時 1】	大化の改新や木簡に記された内容を調べ、天皇中心の中央集権の仕組みが整えられたことを捉える。	○大化の改新とその後の改革の内容や木簡に書かれていることなどを調べ、都と地方の関係について考え、天皇中心の政治の仕組みについて捉える。 ◆大化の改新をきっかけに中央集権の仕組みがつくられ、天皇中心の国づくりが進められたこと。	①大化の改新とその後の改革の内容について調べる。 ②木簡が何に使われたのか考えたり、貴族と庶民の食事を比べたりして、都と地方との関係について話し合う。 ③天皇中心の中央集権の体制が整備されていったことを捉える。	【知技】改革の内容や木簡などの資料から、天皇中心の中央集権の仕組みがつくられていったことを捉えている。(発)(ノ)

聖武天皇と大仏づくり P100～101 【配時 1】	大仏造営の様子を調べ、天皇を中心とした政治が確立したことを捉える。	○大仏造営について調べることを通じて、天皇中心の政治の仕組みが整えられていったことを捉える。 ◆天皇が大きな力で全国を支配する仕組みが整えられ、大仏造営や国分寺の建設が進められたこと。	①大仏について調べ、大仏づくりの目的を考える。 ②聖武天皇・行基・大仏づくりに携わった民衆などの立場から、大仏づくりの意味を考え、話し合う。 ③国をあげての大事業が行われたことや、国分寺の分布図などから、天皇中心の支配の仕組みが整えられたことをつかむ。	【知技】大仏造営や国分寺の建立などの国家的事業を通して、天皇中心の政治の仕組みが整ったことを捉えている。(発)(ノ)
海をこえた人やもの P102～103 【配時 1】	大仏が完成した頃の日本とアジアの国々との交流を調べることを通して、日本の国づくりへの大陸の政治や文化の影響を捉える。	○鑑真が来日した経緯や正倉院の宝物などを調べ、日本の国づくりとアジアの国々との関わりについて考える。 ◆日本は中国との交流を通してアジアの国々の文化の影響を受けていること。	①鑑真が来日した経緯から、鑑真の思いや日本に招いた人々の願いを考える。 ②P94～95も振り返りながら、遣唐使たちが果たした役割について考える。 ③正倉院宝物や地図から、日本とアジアの国々とのつながりについて考える。	【知技】鑑真の来日や正倉院の宝物と外国から出土した品々との比較から、日本の国づくりとアジアの国々との関わりについて捉えている。(発)(ノ)
藤原道長と貴族の暮らし P104～105 【配時 1】	貴族の暮らしの様子を調べ、貴族が栄えた頃の文化と今日の暮らしや文化とのつながりに関心をもてるようにする。	○貴族の屋敷や暮らしの様子について調べ、貴族の栄えた頃の政治や文化の様子をつかむ。 ◆貴族が力をもって政治の中心を担うようになり、貴族の暮らしの中から、今につながる文化も生まれてきたこと。	①貴族の屋敷の想像図から、貴族の暮らしの様子を読み取る。 ②藤原氏が行った政治を調べ、貴族が栄えた時代の社会の様子をつかむ。 ③貴族が栄えた時代の社会や文化の特色をつかみ、現在にも受け継がれているものがあることに気づく。	【態】調べたことをもとに、貴族が栄えた頃の文化と今日の自分たちの暮らしや文化との関わりを考えようとしている。(発)(ノ)
日本独自の文化が生まれる P106～107 ＜まとめる＞ P108 【配時 1】	大和絵やかな文字の成立などを調べ、新しい日本風の文化が生まれたことを捉える。 また、調べたことをまとめ、天皇中心の国づくりが進められたことや日本独自の文化が生まれたことを捉え、大陸の文化と日本の国づくりを関連づけて考え、表現する。	○大和絵やかな文字を手がかりに、貴族の時代に生まれた文化を調べ、日本風の文化がつくられたことをつかむ。 ◆大陸の文化の強い影響のもとで発展してきた日本で、それらを消化・吸収した、日本独自の文化が形づくられたこと。	①大和絵やかな文字などを手がかりにして、貴族の時代に生まれた文化について調べる。 ②「源氏物語」、「枕草子」などを通して、貴族の世の中で生まれた文化が現代まで続くよさをもっていることをつかむ。 ③大陸の文化を消化・吸収して、日本独自の文化様式がつくられたことを理解する。 ④「まとめる」(P108)も活用して、本単元の学習をまとめる。	【知技】大陸の文化を消化・吸収した日本独自の文化が発達していったことを理解している。(発)(ノ) 【思判表】大陸から伝わった政治の仕組みや文化と日本の国づくりを関連づけて考え、表現している。(発)(ノ)(テ)

小単元 3	武士の政治が始まる	配当時間 4 時間	教科書 6 P110～118
-------	-----------	-----------	-------------------

目 標

- 武士による政治が始まったことについて理解するとともに、絵画資料や文化財、地図帳や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身につけるようにする。
- 武士による政治の特色、出来事や人物の関連や意味を多角的に考える力、その時代の社会に見られる課題を把握して、歴史を学ぶ意味を考える力、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
- 武士が現れたことによる世の中の変化について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、日本の歴史や伝統を大切に国を愛する心情を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、絵画資料や文化財、地図帳や年表などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いの様子を理解している。 ・ 調べたことを年表や図表などにまとめ、武士による政治が始まったことを理解している。	・ 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見いだし、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いについて考え、表現している。 ・ 源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いの様子を関連づけたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。	・ 武士が現れたことによる世の中の変化について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

小単元名：3 武士の政治が始まる 【配当 4 時間】

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現

(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
武士が現れる P110～111 【配時 1】	武士の暮らしの様子に着目し、武士が現れた後の社会について学習問題をつくり、学習の見通しを立てる。	○武士の館の想像図から、武士の暮らしの様子を読み取り、武士の世の中について調べていく学習問題をつくり、学習計画を立てる。 ◆武士が武芸を身につけ、各地で力をつけてきたこと。	①武士の館の想像図から、武士の暮らしの様子を読み取る。 ②館とその周辺に住んでいる人々の関係について考え、地方や都で武士が現れたことを捉える。 ③貴族の暮らしとの違いに着目しながら、武士が活躍した世の中について調べていく学習問題をつくり、学習計画を立てる。	【思判表】武士の館の様子から、問いを見だし、学習問題として表現している。(発)(ノ) 【態】学習問題について予想や学習計画を立て主体的に追究しようとしている。(発)(行)(ノ)
学習問題 武士が現れて、政治はどのように変わったのだろう。				
源氏と平氏が戦う P112～113 【配時 1】	源氏と平氏の戦いを調べ、武士が力をもった経緯を捉える。	○源平の戦いの経緯を調べ、武士がどのようにして力をもつようになったのかを考える。 ◆武士の中で源氏と平氏が力を伸ばし、戦いの結果、源氏が平氏を滅ぼしたこと。	①源氏と平氏の戦いを時系列で整理しながら、それぞれの戦いの経緯やエピソードを調べる。 ②源氏と平氏の戦いの結果、源氏が勝利して武士が政権を握るまでの流れをつかむ。 ③武士が力をもつようになった背景をつかみ、武士がどのような政治を目ざしたのか予想する。	【知技】平氏の隆盛や源平の戦いから、武士が力をつけていった経緯を理解している。(発)(ノ)
幕府を開いた源頼朝 P114～115 【配時 1】	鎌倉幕府の成立や、幕府と御家人の関係を調べ、幕府の政治の仕組みについて捉える。	○鎌倉の地形的特徴や、幕府と御家人の関係を調べ、武士による政治の仕組みについて考える。 ◆源頼朝が武士による政治を始め、幕府と御家人は土地を仲立ちとしてつながっていたこと。武士の力が朝廷をしのぐようになったこと。	①鎌倉の地形的な特徴を読み取り、これまでの政治の中心地との違いを考える。 ②「ご恩と奉公」、「いざ鎌倉」という言葉に着目し、幕府と御家人の関係について話し合う。 ③幕府の政治の仕組みや朝廷との関係を調べ、鎌倉幕府の特徴を考える。	【知技】鎌倉幕府の成立の経緯や幕府と御家人の関係から、幕府の政治の仕組みを理解している。(発)(ノ)

元との戦い P116～117 <まとめる> P118 【配時 1】	元との戦いとその後の幕府と御家人の関係を調べ、鎌倉幕府の政治がゆらいでいったことを捉える。また、調べたことをまとめ、武士による政治が始まったことやその政治の特徴を捉え、幕府と御家人の関係やその変化について考え、表現する。	○元との戦いの様子を調べ、この戦いが幕府にどのような影響を与えたのかを考える。 ◆元との2度の戦いの結果、「ご恩と奉公」の関係が崩れ、鎌倉幕府が衰えていったこと。	①元軍と日本の武士との戦いの様子を読み取る。 ②武士は何を求めて戦ったのか、幕府はどのように対応したのかを調べる。 ③元との戦いの後、幕府と御家人との関係がどのように変化していったのかを考える。 ④「まとめる」(P118)も活用して、本単元の学習をまとめ、学習を振り返る。	【知技】元との戦いから、幕府と御家人の関係が崩れていったことを理解している。(発)(ノ) 【思判表】鎌倉幕府の政治の特徴について考え、表現している。(発)(ノ)(テ)
--	---	---	--	---

小単元 4	室町文化と力をつける人々	配当時間 4 時間	教科書 6 P120～127
-------	--------------	-----------	-------------------

目 標

- 今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことについて理解するとともに、絵画資料や文化財、地図帳や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身につけるようにする。
- 室町時代の文化の特色、出来事や人物の関連や意味を多角的に考える力、その時代の社会に見られる課題を把握して、歴史を学ぶ意味を考える力、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
- 室町時代の文化について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、日本の歴史や伝統を大切にして国を愛する心情を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、絵画資料や文化財、地図帳や年表などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、室町時代の代表的な建築物や絵画などの特徴を理解している。 ・調べたことを年表や図表などにまとめ、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことを理解している。	・世の中の様子、人物の働きや代表的な文化財などに着目して、問いを見だし、室町時代の文化について考え、表現している。 ・代表的な建造物や絵画などと当時の社会の様子を関連づけたり総合したりして、この頃の文化の特徴を考え、適切に表現している。	・室町時代の文化について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ・学習したことをもとに長い歴史を経て築かれてきた日本の伝統や文化と今日の自分たちの生活との関わりを考えようとしている。

小単元名：4 室町文化と力をつける人々 【配当4時間】

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現

(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
室町時代に生まれた文化 P120～121 【配時1】	室町時代の建造物に着目して、新たな文化が生まれたことについての学習問題をつくり、学習の見通しを立てる。	○金閣・銀閣について調べ、書院造の写真を見て気づいたことを話し合い、学習問題をつくり、学習計画を立てる。 ◆室町時代には足利義満・義政によって金閣・銀閣が建てられ、書院造の部屋が広がったこと。	①金閣・銀閣について調べる。 ②書院造の写真と現在の和室を比べ、気づいたことを話し合う。 ③室町時代に生まれた文化について調べる学習問題をつくり、学習計画を立てる。	【思判表】金閣や銀閣の様子から、問いを見だし、学習問題として表現している。(発)(ノ) 【態】学習問題について予想や学習計画を立て主体的に追究しようとしている。(発)(行)(ノ)
学習問題 室町時代には、どのような文化が生まれたのだろう。				
簡素で静かな美しさ P122～123 【配時1】	水墨画や茶の湯、生け花などを調べ、室町時代の文化の特徴や現在まで文化が受け継がれていることを捉える。	○室町時代にさかんになった水墨画や茶の湯、生け花などについて調べる。 ◆室町時代には、雪舟によって日本風的水墨画が完成され、茶の湯や生け花などもさかんになったこと。	①「天橋立図」を見て、感じたことを話し合う。 ②雪舟の業績を調べる。 ③茶の湯や生け花などについて調べる。 ④水墨画、茶の湯、生け花の特徴を捉え、現代まで受け継がれてきた理由について話し合う。	【知技】水墨画や茶の湯、生け花などから、室町時代の文化の特徴やそれらの文化が現代まで受け継がれていることを理解している。(発)(ノ)
今も受けつがれる室町文化 P124～125 【配時1】	能や狂言について調べ、室町時代に生まれた文化と今日の暮らしや文化とのつながりに関心をもてるようにする。	○能や狂言について調べ、室町時代の文化と今日の暮らしや文化とのつながりを考え、表現する。 ◆田楽や猿楽が能や狂言に発展したこと。室町時代の文化は、現代に受け継がれていること。	①「月次風俗図屏風」と「壬生の花田植」の資料を見て、気づいたことを話し合う。 ②能や狂言について調べる。 ③「狂言師の野村萬斎さんの話」を読んで、室町時代に生まれた芸能が現代に受け継がれていることについて考え、表現する。	【態】調べたことをもとに、室町時代の文化と今日の自分たちの暮らしや文化との関わりを考えようとしている。(発)(ノ)
産業の発達と力をつける人々 P126 ＜まとめる＞ P127 【配時1】	中世の産業の様子を調べ、文化が生まれた背景を捉える。また、調べたことをまとめ、室町時代の文化の特徴を捉え、文化が現代まで受け継がれてきたことを考え、表現する。	○中世の産業の発達について調べ、人々の中から現代につながる文化が生まれたことを考える。 ◆中世に産業が発達し、民衆が力をつけたこと。人々の暮らしの中から生まれた文化は現代にも受け継がれていること。	①「農作業の様子」の想像図を見て、気づいたことを話し合う。 ②さまざまな技術の発達によって、人々の暮らしや農生産の様子はどのように変化していったのかを調べる。 ③人々の暮らしや産業の変化が室町文化に与えた影響を考える。 ④「まとめる」(P127)も活用して、本単元の学習をまとめ、学習を振り返る。	【知技】人々の暮らしや産業の変化を背景に、室町時代の文化が生まれたことを理解している。(発)(ノ) 【思判表】室町時代の文化の特徴や現代まで受け継がれてきた意義を考え、表現している。(発)(ノ)(テ)

小単元 5	全国統一への動き	配当時間 5 時間	教科書 6 P128～140
-------	----------	-----------	-------------------

目 標

- 戦国の世が統一されたことを理解するとともに、絵画資料や文化財、地図帳や地球儀、年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身につけるようにする。
- 信長・秀吉・家康の政治の特色、出来事や人物の関連や意味を多角的に考える力、その時代の社会に見られる課題を把握して、歴史を学ぶ意味を考える力、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
- 信長・秀吉・家康の全国統一について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、日本の歴史や伝統を大切にして国を愛する心情を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、絵画資料や文化財、地図帳や地球儀、年表などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、キリスト教の伝来、信長・秀吉・家康の全国統一、江戸幕府の始まりについて理解している。 ・調べたことを年表や文などにまとめ、戦国の世の中が統一されたことを理解している。	・世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見いだし、キリスト教の伝来、信長・秀吉・家康の全国統一について考え、表現している。 ・キリスト教の伝来、信長・秀吉・家康の全国統一、江戸幕府の始まりの様子を関連づけたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。	・信長・秀吉・家康の全国統一について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

小単元名：5 全国統一への動き 【配当5時間】

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現

(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
戦国の世の中 P128～131 【配時 2】	長篠の戦いの様子に着目し、戦国の世の中から全国が統一されたことについて学習問題をつくり、学習の見通しを立てる。	○長篠の戦いの絵図から気づいたことを話し合い、戦国の世の中になった経緯や信長・秀吉・家康の3人のおおまかな経歴について調べて、学習問題をつくり、学習計画を立てる。 ◆応仁の乱の後、日本は戦国の世の中になり、外国から伝わった鉄砲が戦いに使われるようになったこと。	①長篠の戦いの絵図を読み取り、気づいたことを発表する。 ②教科書の文章や地図などから、戦国の世の中になった経緯や、当時の様子を調べる。 ③3人の武将の人物年表から、3人の武将によって、戦国の世の中がこの後どのように統一されていくのか話し合う。 ④全国統一がどのように進められていくのかについて学習問題をつくり、学習計画を立てる。	【思判表】長篠の戦いの様子から、問いを見だし、学習問題として表現している。 (発) (ノ) 【態】学習問題について予想や学習計画を立て主体的に追究しようとしている。(発) (行) (ノ)
学習問題 3人の武将は、どのように世の中を治めて、全国を統一していったのだろう。				
全国統一を目ざした織田信長 P132～135 【配時 1】	織田信長が行った政治やキリスト教の伝来を調べ、全国統一に向けて信長が果たした役割を捉える。	○信長が全国統一を目ざして行った業績を調べ、当時の人々の思いや信長の果たした役割を考える。 ◆信長は、対抗勢力を武力で抑えこみながら、商工業をさかんにしたりキリスト教を保護したりするなど、新しい考え方で政治を進めたこと。	①「安土城と城下町」の想像図から、信長の政治がどのようなものだったのかを考える。 ②信長はどのようにして全国統一を進めようとしたのかを調べる。 ③「南蛮図屏風」や文章から全国統一を目指す信長がなぜ外国との関係を強めたのか考える。 ④全国統一を進めるために信長の行ったことをまとめ、果たした役割を考える。	【知技】想像図や絵図を読み取り、信長の政治の特徴を捉えている。(発) (ノ)
全国を統一した豊臣秀吉 P136～137 【配時 1】	豊臣秀吉が行った政治を調べ、全国統一に向けて秀吉が果たした役割を捉える。	○秀吉が全国統一を目ざして行った業績を調べ、当時の人々の思いや秀吉の果たした役割を考える。 ◆秀吉は信長の政治を引き継いで全国統一を達成し、検地や刀狩の政策を進めたこと。	①秀吉はどのようにして全国統一を進めようとしていたのかを調べる。 ②当時の人々が秀吉のことをどのように思っていたかを、調べたことを根拠にして考える。 ③全国統一を進めるために秀吉の行ったことをまとめ、果たした役割を考える。	【知技】全国を統一した秀吉が、どのような社会の仕組みをつくったのかを捉えている。(発) (ノ)

江戸幕府を開いた徳川家康 P138～139 ＜まとめる＞ P140 【配時 1】	徳川家康が行った政治を調べ、全国統一に向けて家康が果たした役割を捉える。また、調べたことをまとめ、3人の武将によって戦国の世の中が統一されたことを捉え、3人の武将の業績を比較し、全国統一に果たした役割を考え、表現する。	○家康が江戸幕府を開くまでの経緯を調べ、信長・秀吉・家康の政治をまとめる。 ◆家康が対立する大名を破り、江戸幕府を開いたこと。大規模な工事などを通して、大名への支配を強めたこと。	①家康はどのようにして江戸幕府を開いたのかを調べる。 ②「江戸図屏風」や地図などから家康の政治の特徴を考える。 ③「まとめる」(P140)も活用して、本単元の学習をまとめ、学習を振り返る。	【知技】信長・秀吉の後を継いだ家康が、どのようにして支配を固めたのかを捉えている。(発)(ノ) 【思判表】3人の武将の政治を比較し、それぞれの政治が全国統一に果たした役割について考え、表現している。(発)(ノ)(テ)
--	---	--	--	---

小単元 6	幕府の政治と人々の暮らし	配当時間 5 時間	教科書 6 P142～152
-------	--------------	-----------	-------------------

目 標

- 武士による政治が安定したことについて理解するとともに、絵画資料や文化財、地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身につけるようにする。
- 江戸幕府の政治の特色、出来事や人物の関連や意味を多角的に考える力、その時代の社会に見られる課題を把握して、歴史を学ぶ意味を考える力、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
- 江戸幕府の政治について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、日本の歴史や伝統を大切にして国を愛する心情を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、絵画資料や文化財、地図帳や地球儀、年表などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、参勤交代や身分制度、鎖国などの幕府の政策について理解している。 ・ 調べたことを年表や図表などにまとめ、武士による政治が安定したことを理解している。	・ 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見いだし、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制度について考え、表現している。 ・ 参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制度を関連づけたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。	・ 江戸幕府の政治について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

小単元名：6 幕府の政治と人々の暮らし 【配当5時間】

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現

(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価基準/評価方法
江戸を目ざす 行列 P142～143 【配時1】	大名行列の様子に着目し、江戸幕府の政治について学習問題をつくり、学習の見通しを立てる。	○大名行列の想像図を読み取り、大名行列が行われるようになった理由を考え、江戸幕府の政治の仕組みや社会の様子について学習問題をつくり、学習計画を立てる。 ◆江戸時代には、各地の大名が行列をつくり、多くの日数と費用をかけて江戸に向かったこと。	①想像図を読み取り、気づいたことや疑問に思ったことを出し合う。 ②大名行列が行われたのはなぜかを予想する。 ③江戸幕府の政治の仕組みや社会の様子について調べていく学習問題をつくり、学習計画を立てる。	【思判表】大名行列の様子から、問いを見だし、学習問題として表現している。 (発)(ノ) 【態】学習問題について予想や学習計画を立て主体的に追究しようとしている。 (発)(行)(ノ)
学習問題 江戸幕府は、どのようにして全国を治めていったのだろう。				
江戸幕府と大名 P144～145 【配時1】	大名の配置図や武家諸法度、参勤交代の制度などを調べ、江戸幕府の大名支配の仕組みを捉える。	○大名配置図や武家諸法度、参勤交代の制度などを調べ、江戸幕府がどのような仕組みや考え方で大名を支配したのかを考える。 ◆江戸幕府が、大名たちが力をつけられないような仕組みをつくり、強い力で全国を支配したこと。	①将軍に挨拶する大名たちの絵などから、江戸幕府の支配が強まったことを確認する。 ②大名の配置にはどのような特徴があるかを話し合う。 ③武家諸法度などから幕府がどのような考え方で大名を支配したのかを調べる。 ④江戸幕府と大名の関係についてまとめる。	【知技】江戸幕府の政策から、大名支配の考え方や、その仕組みを捉えている。 (発)(ノ)
人々の暮らしと身分 P146～147 【配時1】	身分制度のもとでの人々の暮らしを調べ、江戸幕府の人々に対する支配の仕組みを捉える。	○村やまちに住む人々の暮らしの様子を調べ、幕府が人々をどのように治めていたかを捉える。 ◆身分制度が確立し、人々は決められた役割を負って暮らしていたこと。	①村に住む人々の暮らしの様子や、百姓に対する幕府の政策を調べる。 ②都市に住む人々の暮らしの様子や、町人に対する幕府の政策を調べる。 ③身分制度が確立したことと、幕府の支配との関係について考える。	【知技】江戸幕府の人々に対する支配の仕組みを捉えている。(発)(ノ)
鎖国への道 P148～149 【配時1】	鎖国の経緯や内容を調べ、鎖国政策が幕府の支配に及ぼした影響を捉える。	○幕府が鎖国政策をとるまでの経緯を調べ、鎖国政策が国内にもたらした影響を考える。 ◆鎖国政策によって、江戸幕府が国内の支配をゆるぎないものにし、貿易の利益も独占するようになったこと。	①絵踏みの様子から、江戸時代に外国との交流が変化していったことを捉える。 ②鎖国にいたる経緯を調べ、何を目的にして行われたのかを考える。 ③鎖国政策は国内にどのような影響をもたらしたかを考える。	【知技】鎖国の経緯などから鎖国政策が幕府の支配を強めたことを理解している。(発)(ノ)

鎖国のもとでの交流 P150～151 <まとめる> P152 【配時1】	鎖国下での江戸時代の外国との交流を調べ、幕府の外交政策や交易の様子を捉える。 また、調べたことをまとめ、江戸幕府の政治によって、武士の政治が安定したことを捉え、幕府の政策と人々の暮らしや社会の様子を関連づけて考え、表現する。	○鎖国のもとで行われた近隣諸国との交流を調べ、外国との交流が与えた影響を考える。 ◆鎖国政策のもとでも、対馬・薩摩・松前を窓口として近隣諸国との行き来や交易が行われていたこと。	①鎖国によって、外国との交流はどうなったのかを予想する。 ②対馬・薩摩・松前を窓口として、他の国や地域と交流が行われていたことを調べる。 ③鎖国のもとで、日本が他の国や地域とどのような関係で結ばれていたのかをまとめる。 ④「まとめる」(P152)も活用して、本単元の学習をまとめ、学習の過程を振り返る。	【知技】江戸幕府と外国との関係について理解している。(発)(ノ) 【思判表】幕府の政策が人々の支配にどのような影響を与えたかを考え、表現している。(発)(ノ)(テ)
--	--	--	---	--

小単元 7	新しい文化と学問	配当時間 6 時間	教科書 6 P154～166
-------	----------	-----------	-------------------

目 標

- 町人の文化が栄え新しい学問がおこったことについて理解するとともに、絵画資料や文化財、地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身につけるようにする。
- 江戸時代の文化や学問の特色、出来事や人物の関連や意味を多角的に考える力、その時代の社会に見られる課題を把握して、歴史を学ぶ意味を考える力、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
- 江戸時代の文化や学問について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、日本の歴史や伝統を大切にして国を愛する心情を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、絵画資料や文化財、地図帳や年表、統計や年表などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、代表的な江戸文化や国学や蘭学の特徴を理解している。 ・調べたことを年表や図表などにまとめ、町人の文化が栄え新しい学問がおこったことを理解している。	・世の中の様子、人物の働きや代表的な文化財などに着目して、問いを見だし、江戸時代の文化について考え、表現している。 ・代表的な江戸時代の文化や学問、当時の社会の様子を関連づけたり総合したりして、この頃の文化や学問の特徴を考え、適切に表現している。	・江戸時代の文化について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ・学習したことをもとに長い歴史を経て築かれてきた日本の伝統や文化と紺にとの自分たちの生活との関わりを考えようとしている。

小単元名： 7 新しい文化と学問 【配当6時間】

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現

(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
都市のにぎわいと人々の楽しみ P154～155 【配時 1】	江戸のまちのにぎわいに着目し、江戸時代の文化や学問についての学習問題をつくり、学習の見通しを立てる。	○江戸のまちのにぎわいや人々の様子から、この時代にどのような文化や学問が生まれたのかを調べていく学習問題をつくり、学習計画を立てる。 ◆大都市を中心に人々が力をつけ、新しい文化を楽しんでいること。	①「熙代勝覧」を読み取り、気づいたことや考えたことを発表し合う。 ②江戸時代の都市の様子や経済の発達について調べる。 ③豊かになった人々が生み出した文化や学問について調べていく学習問題をつくり、学習計画を立てる。	【思判表】日本橋のにぎわいの様子から、問いを見いだし、学習問題として表現している。(発)(ノ) 【態】学習問題について、予想や学習計画を立て主体的に追究しようとしている。(発)(行)(ノ)
学習問題 江戸時代には、どのような文化や学問が生まれたのだろう。				
活気あふれる町人の文化 P156～157 【配時 1】	歌舞伎や浮世絵などを調べ、江戸時代の町人文化の特徴を捉える。	○歌舞伎を楽しむ人々の様子や浮世絵などから、この頃に生み出された文化の特徴をつかみ、人々に親しまれた理由を考える。 ◆江戸時代には歌舞伎や浮世絵などが生み出され、人々の人気を得たこと。	①歌舞伎を楽しむ人々の様子から、歌舞伎に対する人々の思いを考える。 ②歌舞伎や浮世絵を例に、この時代に生み出された文化について調べる。 ③歌舞伎や浮世絵がさかんになった理由を考え、江戸時代の文化の特徴をまとめる。	【知技】江戸時代に生まれた文化の特徴を、時代背景と関連づけて捉えている。(ノ)
今につながる江戸の文化 P158～159 【配時 1】	江戸時代の人々の楽しみを調べ、江戸時代の文化と今日の暮らしや文化とのつながりに関心をもてるようにする。	○浮世絵や写真から、江戸時代の人々の楽しみを調べ、この頃に生み出された文化が現代にも受け継がれていることを理解する。 ◆江戸時代には人々の楽しみが生まれ、現代の暮らしの中に受け継がれていること。	①新しい文化を生み出す背景となった江戸時代の社会の様子を調べる。 ②浮世絵や写真から、江戸時代の人々の楽しみを調べ、現在の文化とのつながりを考える。 ③江戸時代に生まれた文化が現代まで受け継がれてきた意味を考え、話し合う。	【態】調べたことをもとに、江戸時代の文化と今日の自分たちの生活との関わりを考えようとしている。(発)(ノ)
文化を支えた産業と交通 P160～161 【配時 1】	江戸時代の人やものの動きを調べ、産業の発展に伴って流通網が急速に整備され、人々の暮らしが変化したことを捉える。	○江戸時代の交通や産業の発達について調べ、人々の暮らしの変化との関係について考える。 ◆交通や産業の発達によって、人々の暮らしが変わっていったこと。	①浮世絵や地図から、江戸や大阪を中心として日本各地が陸路・海路で結ばれ、流通がさかんになったことを読み取る。 ②農村での生産や暮らしの変化を調べる。 ③流通が発達し、生産力が高まることによって人々の暮らしや社会の様子がどのように変わったのかを考える。	【知技】浮世絵や地図から、交通網が発達したことや、それに伴って流通がさかんになったり人々の暮らしが変わったりしたことを捉えている。(発)(ノ)

新しい学問 P162～163 【配時 1】	「解体新書」の作成や伊能忠敬の地図づくり、本居宣長の業績などを調べ、江戸時代の新しい学問の特徴を捉える。	○「解体新書」や伊能忠敬の地図作成の過程、本居宣長の業績を調べ、新しい学問を求める人々の取り組みを捉える。 ◆江戸時代には、蘭学や国学などの新しい学問がおこったこと。	①2枚の人体図の比較や「解剖の見学」の想像図から、気づいたことを話し合う。 ②「解体新書」が出版された経緯や、伊能忠敬、本居宣長らの業績を調べる。 ③江戸時代におこった新しい学問とその影響についてまとめる。	【知技】江戸時代におこった学問の特徴を捉えている。(発)(ノ)
人々と学問、新しい時代への動き P164～165 ＜まとめる＞ P166 【配時 1】	寺子屋や藩校の広がり、百姓一揆や打ちこわしの増加などを調べ、教育の広がりが人々に与えた影響を捉える。 また、調べたことをまとめ、江戸時代に町人の文化や新しい学問が生まれ、人々に広まったことを捉え、その背景や影響を考え、表現する。	○江戸時代の寺子屋や藩校の広がり、百姓一揆や打ちこわしについて調べ、幕府を取り巻く環境の変化により人々の幕府に対する不満が高まったことを捉える。 ◆江戸時代には寺子屋、藩校、私塾がつくられ、教育が広がっていったこと。飢饉や外国への幕府の対応に対して人々の不満が高まったこと。	①「寺子屋の様子」から、江戸時代の教育の様子を読み取る。 ②寺子屋や藩校、私塾でどのような教育が行われていたのかを調べる。 ③百姓一揆や打ちこわしのグラフなどから、江戸幕府に対する人々の不満が広がっていたことを読み取る。 ④教育の広がりや幕府を取り巻く環境の変化が世の中に与えた影響について考える。 ④「まとめる」(P166)も活用して、本単元の学習をまとめる。	【知技】教育の広がりや百姓一揆・打ちこわしの様子から、社会の変化を捉えている。(発)(ノ) 【思判表】江戸時代に生まれた文化や学問について社会の変化と関係付けて考え、表現している。(発)(ノ)(テ)

小単元 8	明治の新しい国づくり	配当時間 6 時間	教科書 6 P170～182
-------	------------	-----------	-------------------

目 標

- 日本が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことについて理解するとともに、絵画・写真資料や文化財、地図や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身につけるようにする。
- 明治時代の近代化の特色、出来事や人物の関連や意味を多角的に考える力、その時代の社会に見られる課題を把握して、歴史を学ぶ意味を考える力、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
- 明治時代の近代化について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、日本の歴史や伝統を大切にして国を愛する心情を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、絵画・写真資料や文化財、地図帳や地球儀、統計や年表などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化による社会の変化などを理解している。 ・調べたことを年表や図表などにまとめ、日本が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解している。	・世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見いだし、黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などについて考え、表現している。 ・黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化による社会の変化などを関連づけたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。	・明治時代の近代化について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

小単元名：8 明治の新しい国づくり 【配当6時間】

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現

(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
新しい世の中へ P170～171 【配時1】	2枚の浮世絵の人々や教育の様子の違いから、江戸時代が終わり、新しい時代になったことを考え、表現する。	○明治時代と江戸時代の高輪の様子を描いた浮世絵を比較しながら調べ、新しい時代になってどのような変化があったのかを考える。 ◆まちや人々の様子が大きく変わった背景には、政治や社会の仕組みの変化があったこと。	①「明治時代の初め(1872年)の高輪の様子」から、人々や建物、乗り物の様子を読み取る。 ②「江戸時代(1850年ごろ)にえがかれた高輪の様子」と比べ、どのような変化があったのかを考える。 ③新しい時代が変わっていった理由を話し合う。	【思判表】明治時代と江戸時代の浮世絵を比較し、疑問をもち、新しい世の中が変わったことを考え、表現している。(発)(ノ)
黒船が来た P172～173 【配時1】	黒船来航とそれに対する幕府の対応に着目し、新しい国づくりについての学習問題をつくり、学習の見通しを立てる。	○黒船来航の様子とその目的、それに対する幕府の対応や外国との条約の内容が政治や社会の仕組みに与えた影響を考え、学習問題をつくり、学習計画を立てる。 ◆ペリー艦隊の来航によって鎖国が終わるとともに、外国と不平等な条約を結び、貿易が始まったこと。	①ペリー艦隊と防備を固める人々の絵から、当時の人々や幕府が黒船来航をどのように捉えていたかを読み取る。 ②ペリーが来航した目的や幕府の対応について調べる。 ③外国と結んだ条約の内容をつかみ、それによって国内にどのような影響があったのかを考え、学習問題をつくり、学習計画を立てる。	【思判表】明治時代の国づくりについて問いを見だし、学習問題として表現している。(発)(ノ) 【態】学習問題について予想や学習計画を立て主体的に追究しようとしている。(発)(行)(ノ)
学習問題 明治の新しい国づくりは、何を旨として、どのように進められたのだろう。				
江戸幕府がたおれる P174～175 【配時1】	開国による人々の暮らしの変化や新しい政治を旨とする動きを調べ、武士の世の中が終わった経緯を捉える。	○幕府に対する人々の不満の高まりや、新しい政治を旨とする動きの強まりについて調べ、江戸幕府が倒れた経緯をつかむ。 ◆国内の政治への不満や開国の影響によって、幕府に代わる新しい政治を求める動きが強まり、江戸幕府が倒れ、武士の政治が終わったこと。	①幕末の米の値段の移り変わりのグラフなどから、江戸幕府に対する人々の不満が広がっていたことを読み取る。 ②武士の中からも、幕府の政治を批判する勢力が出てきたことを調べる。 ③江戸幕府が倒れた経緯と要因をまとめる。	【知技】開国による影響や幕府の対応を西郷・大久保・木戸らの働きと関連づけて、江戸幕府が倒れた経緯を捉えている。(発)(ノ)
新政府による国づくりの始まり P176～177 【配時1】	明治政府が行った廃藩置県や身分制度などの改革を調べ、政府がどのような国づくりを旨としたのかを捉える。	○明治政府が行った諸改革によって、社会がどのように変わっていったのかを調べる。 ◆明治政府が、欧米諸国に学びながら、天皇を中心とした政治を進め、行政制度や身分制度を改革して社会を変えていったこと。	①岩倉使節団についての資料から、明治政府がどこから新しい政治や文化を学ぼうとしていたのかを読み取る。 ②五か条の御誓文から、政府がどのような方針で国づくりを進めたのかを調べる。 ③政府が行った諸改革を調べ、それによって社会がどのように変わったのかを考える。	【知技】明治政府が行った廃藩置県や身分制度の改革により、新しい政治の仕組みが整ったことを捉えている。(発)(ノ)

欧米の国々に追いつけ P178～179 【配時 1】	明治政府が、富国強兵の政策を行ったことを調べ、欧米諸国に追いつけるような国づくりを目ざしたことを捉える。	○明治政府が進めた富国強兵の国づくりについて調べ、それによって政府が何を目ざしたのかを考える。 ◆政府が、地租改正や徴兵令によって国を強くしたり、外国に学んで近代的な産業をおこして国を豊かにしたりすることで、欧米諸国に追いつこうとしたこと。	①地租改正や徴兵令について資料を活用して調べる。 ②産業を発展させるために、政府がどのようなことを行ったのかを調べる。 ③①②を通して、政府はどのような国を目ざして国づくりを進めたのかを考える。	【知技】地租改正や徴兵令、殖産興業をもとに、明治政府は、富国強兵政策を進め、欧米諸国に追いつく国づくりを目ざしたことを捉えている。(発)(ノ)
人々の暮らしが変わった P180～181 ＜まとめる＞ P182 【配時 1】	人々の暮らしやまちの様子の変化を調べ、新しい時代になって西洋風の文化や考え方が取り入れられたことを捉える。また、調べたことをまとめ、日本は欧米の文化を取り入れて近代化を進めたことを捉え、明治政府がどのような国を目ざしたのかを政策などに関連づけて考え、表現する。	○明治時代になり、人々の暮らしやまちの様子、考え方がどのように変わったのかを調べる。 ◆西洋風の文化や考え方を積極的に取り入れ、人々の暮らしや意識、社会の制度が変化したこと。	①明治初め頃の東京の様子絵から、まちなみや人々の様子の変化を読み取る。 ②学校制度や暮らしにどのような変化があったのか、絵画や年表などから調べる。 ③福澤諭吉の業績について調べ、人々の生活や考え方の変化、現代の暮らしへの影響を考える。 ④「まとめる」(P182)も活用して、本単元の学習をまとめ、学習の過程を振り返る。	【知技】明治時代に西洋の文化の影響によって、人々の生活や考え方も変化したことを理解している。(発)(ノ) 【思判表】明治政府の改革の内容や世の中の様子の変化から、どのような国づくりが目ざされていたのかを考え、表現している。(発)(ノ)(テ)

小単元 9	近代国家を目ざして	配当時間 9 時間	教科書 6 P184～201
-------	-----------	-----------	-------------------

目 標

- 日本の国力が充実し国際的地位が向上したことについて理解するとともに、絵画・写真資料や文化財、地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身につけるようにする。
- 条約改正に向けた取り組みの特色、出来事や人物の関連や意味を多角的に考える力、その時代の社会に見られる課題を把握して、歴史を学ぶ意味を考える力、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
- 条約改正に向けた取り組みについて、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、日本の歴史や伝統を大切にして国を愛する心情を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、絵画・写真資料や文化財、地図帳や地球儀、統計や年表などの資料で調べ、条約改正、大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、科学の発展などを理解している。 ・調べたことを年表などにまとめ、日本の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解している。	・世の中の様子などに着目して、問いを見いだし、条約改正、大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、科学の発展などについて考え、表現している。 ・条約改正、大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、科学の発展などを関連づけたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。	・条約改正に向けた取り組みについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

小単元名： 9 近代国家を目ざして 【配当 9 時間】

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現

(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
ノルマントン号事件と条約改正 P184～185 【配時 1】	ノルマントン号事件について調べ、不平等条約の改正を願う人々の思いを考え、表現する。	○不平等条約の影響や、政府・国民の考えを調べ、条約改正までの動きに興味をもつ。 ◆政府が西洋化・近代化を進め条約改正を実現しようとしたこと。ノルマントン号事件をきっかけに条約改正を求める国内の声が強まったこと。	①条約改正に向けての取り組みを調べる。 ②ノルマントン号事件に対して国民がどのように考えていたのかを調べる。 ③条約改正に対する人々の思いを考える。	【思判表】ノルマントン号事件の経緯などから、疑問をもち、人々が不平等条約の改正を願っていたことを考え、表現している。(発)(ノ)
学習問題をつくり、学習計画を立てよう P186～187 【配時 1】	条約改正への歩みに着目し、条約改正を達成するまでの出来事について学習問題をつくり、学習の見通しを立てる。	○二つの年表の読み取りから、不平等条約について学習問題をつくり、学習計画を立てる。	①二つの年表の読み取りからわかったことや考えたことや知りたいことを話し合い、学習問題をつくる。	【思判表】不平等王役の改正について問いを見いだし、学習問題として表現している。(発)(ノ)
学習問題 不平等条約の改正は、どのようにして実現されたのだろう。				
			②学習問題に対する予想を出し合う。 ③学習問題を解決していくための方法(調べること・調べ方)について見通しをもつ。	【態】学習問題について予想や学習計画を立て主体的に追究しようとしている。(発)(行)(ノ)
自由民権運動が広まる P188～189 【配時 1】	西南戦争や自由民権運動の高まりについて調べ、人々が新しい政治に対してもっていた願いを捉える。	○自由民権運動や西南戦争について調べ、人々がどのような政治を期待していたのかを考える。 ◆明治政府が行った政策に対しては反対の動きもあったこと。広く国民の意見を取り入れた政治を求める運動が起こり、広まったこと。	①西南戦争など各地で起こった土族の反乱を調べ、明治政府の諸改革との関連を考える。 ②「自由民権運動の演説会」にせりふをつけ、人々が政治に求めていることを考える。 ③自由民権運動が何を求め、どのように広がっていったのかを調べ、その影響について考える。	【知技】国民の意見を政治に取り入れることを求めて、自由民権運動が起こったことを理解している。(発)(ノ)
国会が開かれる P190～191 【配時 1】	大日本帝国憲法の発布や国会の開設について調べ、明治政府が目ざした政治のあり方がどのように実現したのかを捉える。	○大日本帝国憲法の条文や大日本帝国憲法下での政治の仕組み、制定の過程から、明治政府が目ざした政治のあり方について考える。 ◆大日本帝国憲法が制定され、天皇主権のもとで国民の権利も一定認められるようになったこと。憲法に基づいて議会政治が始まったこと。	①大日本帝国憲法の条文や制定までの過程、大日本帝国憲法下での政治の仕組みを調べ、政府がどのような国を目ざしていたのかを話し合う。 ②民間でつくられた憲法案を調べ、人々がどのような願いをもっていたのかを考える。 ③選挙が行われ国会が開かれたことについて調べ、その意味を考える。	【知技】大日本帝国憲法の内容や国会を開いたことから、明治政府が目ざした政治の考え方を捉えている。(発)(ノ)

日清・日露の戦い P192～193 【配時 1】	日清・日露戦争について調べ、日本と世界の国々との関係の変化を捉える。	○二つの戦争の様子と結果を調べ、日本と周りの国々との関係がどのように変わったのかを考える。 ◆日清戦争に勝利した日本は大陸へ勢力を伸ばす足がかりをつかみ、これを警戒するロシアとの間で日露戦争が起こったこと。	①風刺画から、当時の東アジアの情勢を読み取る。 ②地図やグラフなどから、二つの戦争の様子や影響を調べる。 ③二つの戦争によって、日本と周りの国々との関係がどのように変わったのかを考える。	【知技】二つの戦争の経緯や結果から、日本と世界の国々との関係がどのように変化したか捉えている。(発)(ノ)
日露戦争後の日本と世界 P194～195 【配時 1】	日露戦争の影響や朝鮮併合、条約の改正について調べ、日本と外国との関係の変化を多面的に捉える。	○日露戦争後の様子や朝鮮併合の経緯を調べ、その影響について多面的に考えるとともに、不平等条約が改正された背景や理由を考える。 ◆日本が大きな犠牲を出しながらも日露戦争に勝利し、更に朝鮮を併合したこと。日本が国力を向上させていく中で条約改正が達成されたこと。	①日露戦争が国内に与えた影響や、国民がそれをどう受け止めていたのかを調べる。 ②朝鮮併合の経緯を調べ、朝鮮の人々にとってどのような意味をもったのかを考える。 ③不平等条約が改正された背景や理由を考える。	【知技】日本と外国との関係の変化やその影響をさまざまな立場から多面的に捉えている。(発)(ノ)
産業の発展と世界で活躍する人々 P196～197 【配時 1】	産業の発展や日本人の国際社会での活躍について調べ、日本の国力が充実したことや国際的な地位が向上したことを捉える。	○日本の産業がどのように発達していったのかを調べ、その影響について考える。 ◆産業の発展の一方で公害問題も発生したこと。日本人が国際社会で活躍するようになったこと。	①軽工業・重工業が発達し、生産力が向上したことをつかむ。 ②公害問題の発生について調べる。 ③日本人が国際社会で活躍するようになってきたことについて調べる。	【知技】日本の産業や科学の発展から、国力が充実したことや国際社会での地位が向上したことを理解している。(発)(ノ)
暮らしと社会の変化 P198～199 【配時 1】	暮らしの変化や権利を求める運動について調べ、社会が変化したことを捉える。	○女性運動や全国水平社、普通選挙運動について調べ、人々が求めている社会のあり方について考える。 ◆近代化の進展を背景に、民主的な社会を求めるさまざまな運動が起こったこと。	①産業の変化に伴って、人々の暮らしも変化したことを調べる。 ②米騒動や女性運動、全国水平社の運動、普通選挙運動を通して、人々が何を求めているのかを調べる。 ③人々が求めている社会のあり方と民主主義の考え方について話し合う。	【知技】暮らしの変化とともに人々が民主主義を求める社会に変化したことを捉えている。(発)(ノ)
＜まとめ＞ P200～201 【配時 1】	調べたことをまとめ、明治政府の政策による社会の変化や産業・科学の発展を捉え、条約改正の達成と関連づけ、日本の国際的地位が向上したことを考え、表現する。	○学習してきた、条約改正に向けた明治政府の動きをまとめ、どのように条約改正が達成されたか考える。	①学習問題とキーワードを確かめる。 ②学習してきた条約改正が達成されるまでの出来事を年表にまとめる。 ③条約改正の達成を伝えるラジオニュースの原稿をつくり、条約がどのようにして改正されたのかを考える。 ④大日本帝国憲法下での政治の仕組みや選挙権の拡大について確かめる。	【思判表】明治時代の政治や社会の変化と条約改正を関連づけ、日本の国力や国際社会での地位の向上を考え、表現している。(発)(ノ)(テ) 【態】学習したことや学び方を振り返り、これからの学習に生かそうとしている。(発)(ノ)

小単元 10	戦争と人々の暮らし	配当時間 7 時間	教科書 6 P204～218
--------	-----------	-----------	-------------------

目 標

- 日本がかつて戦争をし、国内外に大きな被害を出したことについて理解するとともに、写真資料や遺跡、文化財、地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身につけるようにする。
- 日中戦争や日本に関わる第二次世界大戦の特色、出来事や人物の関連や意味を多角的に考える力、その時代の社会に見られる課題を把握して、歴史を学ぶ意味を考える力、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
- 日中戦争や日本に関わる第二次世界大戦について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、日本の歴史や伝統を大切にして国を愛する心情を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、写真資料や遺跡、文化財、地図帳や地球儀、統計や年表などの資料で調べ、日中戦争や日本に関わる第二次世界大戦の経緯や被害、戦争中の人々の暮らしを理解している。 ・調べたことを年表や図表などにまとめ、日本がかつて戦争をし、国内外に大きな被害を出したことを理解している。	・世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目し、問いを見だし、日中戦争や日本に関わる第二次世界大戦について考え、表現している。 ・日中戦争や日本に関わる第二次世界大戦の経緯や被害と戦争中の人々の暮らしなどを関連づけたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。	・日中戦争や日本に関わる第二次世界大戦の経緯や被害、戦争中の人々の暮らしについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

小単元名：10 戦争と人々の暮らし 【配当7時間】

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現

(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
戦火に焼けた日本 P204～205 【配時1】	空襲の被害を受けた東京のまちと現在の様子に着目し、戦争と人々の暮らしについての学習問題をつくり、学習の見通しを立てる。	○東京大空襲の被害の様子を調べ、戦争とその時代の人々の暮らしに関心をもち、学習問題をつくり、学習計画を立てる。 ◆空襲で多くの人々が犠牲になり、東京をはじめ、たくさんの都市が大きな被害を受けたこと。	①東京大空襲の写真を見て気づいたことを話し合う。 ②東京大空襲での物的・人的な被害を調べる。 ③戦争とその時代について関心をもったことから学習問題をつくり、学習計画を立てる。	【思判表】東京大空襲の被害から、問いを見だし、学習問題として表現している。 (発)(ノ) 【態】学習問題について予想や学習計画を立て主体的に追究しようとしている。(発)(行)(ノ)
学習問題 日本が戦った戦争は、どのような戦争だったのだろう。 それによって、人々の暮らしはどうなったのだろう。				
中国との戦争が始まる P206～207 【配時1】	満州国の建国や中国で戦線が拡大していった経緯を調べ、日中戦争がどのようなものかを捉える。	○日本が満州に進出し、中国との間で戦争が起こった経緯について調べる。 ◆日本が国内の不況を打開するために満州に進出したことから、国際社会で孤立していき、最終的に、中国との戦争が始まったこと。	①満州に渡った人々の暮らしや思いから、日本が中国に進出していった経緯を調べる。 ②満州国建国が国際社会の反感を買い、日本が孤立していったことを捉える。 ③中国で戦線が広がり、戦いが長期化していったことを調べる。 ④日本と中国との戦争がどのようなものだったのかについて考え、まとめる。	【知技】日中戦争が始まった経緯と、その後中国全土に戦線が拡大していったことを理解している。(発)(ノ)
アジア・太平洋に広がる戦争 P208～209 【配時1】	戦争が、アジア・太平洋の広い範囲に拡大していった経緯や背景を調べ、その影響を捉える。	○戦争がアジア・太平洋地域へと広がっていった経緯とその背景を調べ、日本の状況や他の地域に与えた影響について考える。 ◆日本がアメリカ・イギリスとも戦争を始め、戦域を広げていったこと。資源の不足と戦力の違いや、占領地で起こった抵抗運動によって、日本が徐々に追い込まれていったこと。	①年表と地図から、戦争がアジア・太平洋地域へと広がっていく経過を読み取る。 ②グラフから、日本とアメリカの航空機生産力の違いが何を意味するかを考える。 ③戦況の変化や、占領した地域や植民地の人々に与えた影響について考える。	【知技】年表や地図から、戦争がアジア・太平洋地域に広がっていったことを読み取り、その影響を捉えている。 (発)(ノ)

戦争と人々の暮らし P210～211 【配時 1】	戦争中の暮らしの様子を調べ、戦争が人々の暮らしに与えた影響を捉える。	○戦争が人々の暮らしにどのような影響をあたえたのかを調べ、当時の人々の思いを考える。 ◆国が戦争を推し進めることに総力をあげていった結果、人々の暮らしが物心両面で大きな制約を受けるようになっていったこと。	①写真や年表から人々の暮らしの様子が変わっていったことを調べる。 ②戦争の状況が悪化するに従い、資源や物資が不足していったことをつかむ。 ③標語がつくられた理由と当時の人々の思いを考える。	【知技】 戦争中の国の政策によって、人々の暮らしが影響を受けたことを捉えている。(発)(ノ)
子どもたちと戦争 P212～213 【配時 1】	戦争中の子どもたちの暮らしの様子を調べ、戦争が子どもたちの暮らしに与えた影響を考え、表現する。	○戦争中の子どもたちの暮らしの様子を調べ、当時の子どもたちの思いや願いを考える。 ◆教科書や学校行事への戦争の影響が色濃くなり、戦争遂行のための教育が行われていたこと。	①戦争中の子どもたちの暮らしを予想する。 ②写真や当時の子ども向けの遊び道具などから、戦争中の子どもたちの暮らしについて調べる。 ③戦争が子どもたちの暮らしにどのような影響を与えたのか話し合う。	【知技】 戦争が当時の子どもたちの暮らしに与えた影響を捉えている。(発)(ノ)
おそいかる空襲 P214～215 【配時 1】	空襲による被害や日本各地に残る戦争遺跡を調べ、戦争によって国民が受けた被害の大きさを捉える。	○空襲の様子と被害の大きさについて調べ、戦争が国民生活に及ぼした影響について考える。 ◆アメリカ軍の圧倒的な航空力によって、日本各地が空襲を受け、大きな被害を受けたこと。	①写真から空襲の様子について捉え、空襲を受けた都市の被害について推測する。 ②日本各地の空襲の被害について調べる。 ③疎開体験者に話を聞いたり地域に残る戦争遺跡を調べたりして、国民が受けた被害について話し合う。	【知技】 空襲によって国民が受けた被害の大きさについて捉えている。(発)(ノ)
沖縄・広島・長崎、そして敗戦 P216～217 <まとめ> P218 【配時 1】	沖縄戦や広島・長崎への原爆投下を調べ、大きな犠牲を払い、戦争が終結したことを捉える。 また、調べたことをまとめ、戦争によって国内外に大きな被害があったことを捉え、戦争の人々の暮らしへの影響を考え、表現する。	○沖縄戦や広島・長崎の原爆被害について調べ、この戦争が大きな犠牲を払って終わったことを理解し、戦争の学習から学んだことを表現する。 ◆沖縄戦、広島・長崎への原爆投下によって、多くの非戦闘員の命が奪われ、更に、満州や樺太などでも多くの人が犠牲になった後、戦争が終結したこと。	①沖縄戦の様子と被害について調べる。 ②広島・長崎に投下された原爆による被害について調べる。 ③日本が敗戦を迎えるまでの経緯を調べ、戦争が国内外に大きな被害を出して終わったことをつかむ。 ④「まとめ」(P218)も活用して、本単元の学習をまとめ、学習を振り返る。	【知技】 戦争が国内外に大きな被害を出した後に終わったことを理解している。(発)(ノ) 【思判表】 戦争の経過と暮らしの様子の変化を関連づけ、戦争が人々の暮らしに与えた影響を考え、表現している。(発)(ノ)(テ)

小単元 11	平和で豊かな暮らしを目ざして	配当時間 6 時間	教科書 6 P220～233
--------	----------------	-----------	-------------------

目 標

- 戦後日本は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことについて理解するとともに、写真資料、地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身につけるようにする。
- 戦後の日本の政治や社会の特色、出来事や人物の関連や意味を多角的に考える力、その時代の社会に見られる課題を把握して、歴史を学ぶ意味を考える力、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
- 戦後の日本の政治や社会について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、日本の歴史や伝統を大切にして国を愛する心情を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、写真資料、地図帳や地球儀、統計や年表などの資料で調べ、日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などを理解している。 ・調べたことを年表や図表などにまとめ、戦後日本は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解している。	・世の中の様子に着目し、問いを見だし、戦後の日本の政治や社会について考え、表現している。 ・日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催と社会の変化を関連づけたり総合したりして、戦後日本は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを考えたり、学習してきたことをもとに、歴史を学ぶ意味を考えたりして、適切に表現している。	・戦後の日本の政治や社会について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ・学習してきたことをもとに今日の自分たちの生活と過去の出来事との関わりを考えたり、過去の出来事をもとに現在および将来の発展を考えたりするなど、歴史を学ぶ意味を考えようとしている。

小単元名：11 平和で豊かな暮らしを目ざして 【配当6時間】

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現

(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
焼けあとの出 P220～221 【配時 1】	戦争が終わった頃の暮らしの様子に着目し、戦後の新しい社会についての学習問題をつくり、学習の見通しを立てる。	○戦争が終わった頃の暮らしの様子を調べ、人々がどのような社会を目ざしたのかを考えながら、学習問題をつくり、学習の計画を立てる。 ◆戦争が終わった頃の暮らしはとてつもないものであったこと。その中で人々は暮らしを立て直していったこと。	①写真から、戦争が終わった頃の暮らしの様子を調べ、人々の暮らしを推測する。 ②終戦直後の様子を知る人の話などから、更に調べたいことや疑問を出し合う。 ③戦後の社会や人々の暮らしについて学習問題をつくる。	【思判表】戦争が終わった頃の人々の暮らしの様子から、問いを見だし、学習問題として表現している。(発)(ノ) 【態度】学習問題について予想や学習計画を立て主体的に追究しようとしている。(発)(行)(ノ)
学習問題 戦争のあと、人々はどのように今の社会を築いていったのだろう。				
もう戦争はしない P222～223 【配時 1】	日本国憲法の制定やさまざまな改革を調べ、日本が目ざした新しい社会のあり方について捉える。	○日本国憲法やさまざまな改革を調べ、戦後の日本が目ざした民主的な社会について考える。 ◆日本国憲法が制定され、国民主権の原則のもとで、平和で民主的な社会づくりが目ざされていったこと。	①写真から、戦後の日本が民主的で平和な社会になったことをつかむ。 ②日本国憲法やさまざまな制度の改革について調べる。 ③戦後の日本が目ざした社会のあり方について話し合う。	【知技】日本国憲法やさまざまな改革の内容をつかみ、戦後、日本が民主的な国家を目ざしてきたことを捉えている。(発)(ノ)
日本の独立と国際社会への復帰 P224～225 【配時 1】	サンフランシスコ平和条約の締結や韓国や中国との国交の正常化について調べ、日本が国際社会に復帰した過程を捉える。	○日本が独立を回復した経緯や韓国や中国との国交の正常化について調べ、これらのことが国内外に及ぼした影響について考える。 ◆終戦から7年めに日本が独立を回復し、国際連合にも加入して国際社会へ復帰したこと。終戦まで日本が植民地として支配していた韓国や戦争で被害を与えた中国と国交が正常化したこと。	①アメリカに占領されていた日本が独立を回復した経緯をつかむ。 ②日本が韓国や中国と国交を正常化した経緯について、戦前や戦争中の出来事を振り返りながら調べる。 ③戦後、日本がどのように国際社会に復帰していったのかをまとめる。	【知技】サンフランシスコ平和条約の締結や韓国や中国との国交の正常化などから、日本が国際社会に復帰したことを理解している。(発)(ノ)
東京オリンピック・パラリンピックが開かれる P226～227 【配時 1】	東京オリンピック・パラリンピックの開催について調べ、戦後、日本が復興し、社会が変化したことについて捉える。	○東京オリンピック・パラリンピックの開催について調べ、日本が復興し、人々の暮らしが変化したことについて捉える。 ◆日本がオリンピック・パラリンピックを開催できるまで復興したこと。交通や施設などの整備が進み、人々の暮らしが変化したこと。	①東京オリンピック・パラリンピックについて調べる。 ②東京オリンピック・パラリンピックの前後に社会がどのように変化したのかを調べる。 ③東京オリンピック・パラリンピックを見た日本の国民や外国の人々の思いについて考える。	【知技】オリンピック・パラリンピックを開催できるまでに日本が復興し、社会が変化したことを捉えている。(発)(ノ)

産業の発展と 国民生活の変 化 P228～229 【配時 1】	産業や経済の発展を 調べ、社会の様子や 人々の暮らしがどの ように変化していっ たのかを捉える。	○産業や経済の発展と人々の暮 らしの向上を調べ、経済成長が もたらした変化について考える。 ◆日本の産業が急速に発展し、 人々の暮らしが向上したこと。 その一方で、公害の問題が起きたこと。	①産業や経済が急速に発展し ていった様子について調べ る。 ②経済の発展によって人々の 暮らしがどのように変化した のかを調べる。 ③産業が発展していく一方 で、公害の問題も起こったこ とをつかむ。	【知技】資料を読み取ったり 家の人から話を聞いたりし て、経済が急速に発展した頃 の暮らしの変化について捉 えている。(発)(ノ)
これからの日 本とわたしたち P230～232 ＜まとめる＞ P233 【配時 1】	戦後の近隣諸国との 関係や現代の社会の 課題を調べ、国際社 会の一員として友好 や信頼の関係を築い ていくことの大切さ 捉える。 また、調べたことを まとめ、戦後、日本 がさまざまな改革を 行い、国際社会から の信頼を回復したこ とを捉え、戦後の日 本の社会を考え、表 現している。	○日本と近隣の国々やアメリカ との間に残された課題に目を向 け、これからの社会のあり方につ いて考える。 ◆日本と近隣の国々との間で現 代の社会には、解決していかな ければならない課題が残されて いること。ともに発展していく ために、平和で友好的な関係を 築いていくことが重要であるこ と。	①日本と近隣の国々やアメリ カとの結びつきについて調べ る。 ②今日の日本が抱えている課 題についておさえる。 ③今日の社会が築かれてきた 経緯を振り返り、これからの 社会のあり方について考え、 話し合う。 ④「まとめる」(P233) も活 用して、本単元の学習をまと め、学習を振り返る。	【知技】戦後、日本は平和で 民主的な社会を築いてきた 一方で、課題も残されている ことを理解している。(発) (ノ) 【思判表】戦後の出来事や社 会の変化から、日本の政治や 国民生活の変化、国際社会で の役割を考え、表現してい る。(発)(ノ)(テ)

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
＜つなげる＞ 歴史を学ぶ意 味を考え、未 来につなげよ う P236～237 【配時 2】	歴史の学習から学ん だことと自分たちの 暮らしや現在の社会 とのつながりを考 え、今後、自分が大 切にしていきたいこ とを意見文にまとめ る。	○歴史上の人物や出来事から学 んだことをもとに、自分の考え を意見文にまとめる。 ◆歴史から学んだことと自分た ちの暮らしとはつながりがある こと。歴史上の出来事を今後の 自分たちや社会のあり方に生か すことができるということ。	①ノートや作品などから、こ れまで学習してきたことを振 り返り、選挙権の拡大を例に 歴史上の出来事と自分たちの 暮らしや現在の社会とのつな がりについて話し合う。 ②歴史上の人物や出来事から 学んだことをもとに、これか らの自分たちや社会に大切だ と思うことや自分の考えをメ モにまとめて話し合う。 ③話し合ったことをもとに、 意見文を仕上げる。	【思判表】歴史上の人物や出 来事から学んだことを自分 たちの暮らしや現在の社会 と関連づけて考え、表現して いる。(発)(ノ) 【態】歴史上の人物や出来事 から学んだことを、これから の社会や自分たちのあり方 に生かそうとしている。(発) (行)(ノ)

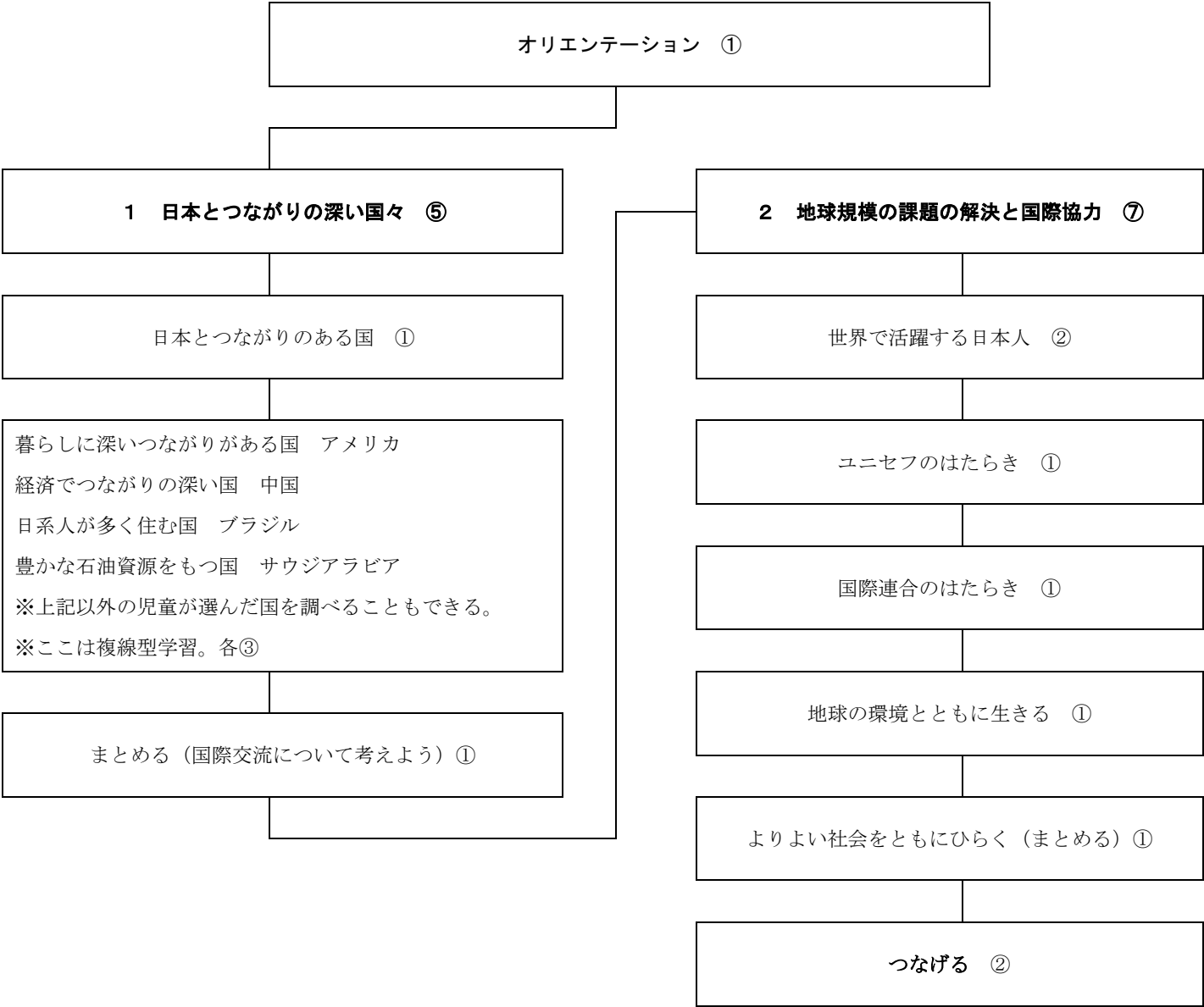
大単元 3	世界の中の日本	配当時間 15 時間	教科書 6 P238～287
-------	---------	------------	-------------------

目 標

- 日本と関係の深い国の人々の生活やグローバル化する国際社会における日本の役割について理解するとともに、地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身につけるようにする。
- 日本と関係の深い国の人々の生活の特色、グローバル化する国際社会における日本の役割、相互の関連や意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
- 日本と関係の深い国の人々の生活やグローバル化する国際社会における日本の役割について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、平和を願う日本人として世界の国々の人々とともに生きることの大切さについての自覚を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・日本と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活は、多様であることを理解するとともに、スポーツや文化などを通して他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解している。 ・日本は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解する。 ・地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめている。	・外国の人々の生活の様子などに着目して、日本の文化や習慣との違いを捉え、国際交流の果たす役割を考え、表現している。 ・地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、国際連合の働きや我が国の国際協力の様子を捉え、国際社会において我が国が果たしている役割を考え、表現している。	・日本とつながりの深い国の人々の生活やグローバル化する国際社会における日本の役割について、主体的に問題解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。



○の中の数字は、配当時数。

小単元 1	日本とつながりの深い国々	配当時間 5 時間	教科書 6 P240～269
-------	--------------	-----------	-------------------

目 標

- 日本と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活は多様であること、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解するとともに、地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身につけるようにする。
- 日本と関係の深い国の生活の特色や相互の関連や意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を考える力、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
- 日本と関係の深い国の人々の生活や国際社会における日本の役割について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、平和を願う日本人として世界の国々の人々とともに生きることの大切さについての自覚を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・外国の人々の暮らしの様子について、地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、日本の文化や習慣との違いを理解している。 ・調べたことを図表やポスターなどやプレゼンテーションソフトを使った作品などにまとめ、日本とつながりが深い国の人々の暮らしは多様であること、スポーツや文化などを通して他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解している。	・外国の人々の生活の様子などに着目して、問いを見だし、日本の文化や習慣との違いを考え、表現している。 ・日本とつながりの深い国の人々の暮らしや文化を比較したり関連づけたら、総合したりして、国際交流の果たす役割や、異なる文化や習慣を尊重し合う大切さを考え、表現している。	・日本とつながりの深い国の人々の暮らしについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

大単元名：3 世界の中の日本

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現

(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
オリエンテーション 日本と世界 P238～239 【配時 1】	世界の人々の暮らしの様子の写真から、生活習慣や文化の異なる世界の国々と日本のつながりを考え、表現する。また、国旗と国歌の意義を捉え、尊重する態度を養う。	○写真などをもとに知っている国を確認し合い、それらの国と日本や自分とのつながりについて、調べてみたいことを話し合う。 ◆世界にはさまざまな国があり、生活習慣や文化などに違いがあること。各国に国旗と国歌があり、その国の象徴として大切にされていること。	①写真をもとに世界にはさまざまな国があることに気づく。 ②写真や文章をもとに、それぞれの国に国旗と国歌があり、その国の象徴として大切にされていることを捉える。 ③地図帳や地球儀を使って知っている国の位置や日本からの距離・方角を確認し、気づいたことを発表し合う。 ④それらの国と日本や自分とのつながりについて、調べてみたいことを話し合う。	【思判表】世界にはさまざまな国があり、日本や自分たちの暮らしと関係を持っていること考え、表現している。 (行) (発)

小単元名：1 日本とつながりの深い国々 【配当5時間】

※「アメリカ」「中国」「ブラジル」「サウジアラビア」の中から、児童が1か国を選択

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現

(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
日本とつながりのある国 P240～241 【配時1】	身のまわりのものや統計資料に着目して、外国と日本のつながりや人々の暮らしについて学習問題をつくり、自分なりの根拠をもって調べる国を決め、学習の見通しを立てる。	○自分たちの生活やこれまで学習してきたことの中から外国とのつながりを探し、日本とつながりの深い国の人々の暮らしについて調べる学習問題をつくり、自分の興味・関心に基づいて調べる国を決め、学習計画を立てる。 ◆日本は、ものや人の行き来や文化交流などを通して、世界のさまざまな国とつながりをもっていること。	①自分たちの生活やこれまで学習してきたことの中から日本と外国のつながりを探し、発表し合う。 ②日本とつながりの深い国々について調べる学習問題をつくる。 ③自分なりの根拠をもって調べる国を決め、何についてどのように調べるか、学習計画を立てる。	【思判表】自分たちの生活や体験、既習事項などから、問いを見だし、学習問題として表現している。(発)(ノ) 【態度】学習問題について、予想や学習計画を立て主体的に追究しようとしている。(発)(行)(ノ)
学習問題 日本とつながりの深い国の人々は、どのような暮らしをしているのだろうか。				
<選択> 暮らしに深いつながりのある国 アメリカ P242～247 【配時3】	日本とアメリカのつながりや人々の生活の様子を調べ、日本との違いやアメリカの特色、人々の暮らしの様子を捉える。	○アメリカについて、本や統計資料などを活用して、さまざまな観点から調べ、日本との相違点・共通点、日本とのつながりについて考える。 ◆アメリカの人々の生活、文化や習慣、国土の特徴、日本とのつながり。異なる文化や習慣をもつ人々と互いに協調していくことの大切さ。	①アメリカについての基本的な情報を地図帳などの資料から確認する。 ②日本とアメリカの文化のつながりを調べ、その特色を考える。 ③地図帳や図書館の本、インターネットなどからアメリカの産業や国土について調べる。 ④アメリカの人々の暮らしの様子について調べ、日本との相違点や共通点について考える。 ⑤調べたことをまとめ、アメリカと日本のつながりやこれからの関係のあり方について考える。	【知技】必要な資料や情報を集め、日本との共通点や相違点、つながりについて意識しながら、アメリカの特色や文化について理解を深めている。(行)(ノ)

＜選択＞ 経済でつながりの深い国 中国 P248～253 【配時 3】	日本と中国のつながりや人々の生活の様子を調べ、日本との違いや中国の特色、人々の暮らしの様子を捉える。	○中国について、本や統計資料などを活用して、さまざまな観点から調べ、日本との相違点・共通点、日本とのつながりについて考える。 ◆中国の人々の生活、文化や習慣、国土の特徴、日本とのつながり。異なる文化や習慣をもつ人々と互いに協調していくことの大切さ。	①中国についての基本的な情報を地図帳などの資料から確認する。 ②日本と中国の貿易の様子や経済のつながりを調べ、その特色を考える。 ③地図帳や図書館の本、インターネットなどから日本と中国の歴史的なつながりについて調べる。 ④中国の人々の暮らしの様子について調べ、日本との相違点や共通点について考える。 ⑤調べたことをまとめ、中国と日本のつながりやこれからの関係のあり方について考える。	【知技】必要な資料や情報を集め、日本との共通点や相違点、つながりについて意識しながら、中国の特色や文化について理解を深めている。 (行) (ノ)
＜選択＞ 日系人が多く住む国 ブラジル P254～259 【配時 3】	日本とブラジルのつながりや人々の生活の様子を調べ、日本との違いやブラジルの特色、人々の暮らしの様子を捉える。	○ブラジルについて、本や統計資料などを活用して、さまざまな観点から調べ、日本との相違点・共通点、日本とのつながりについて考える。 ◆ブラジルの人々の生活、文化や習慣、国土の特徴、日本とのつながり。異なる文化や習慣をもつ人々と互いに協調していくことの大切さ。	①ブラジルについての基本的な情報を地図帳などの資料から確認する。 ②日本とブラジルの歴史的なつながりを調べ、その特色を考える。 ③地図帳や統計資料、図書館の本などからブラジルの文化について調べる。 ④ブラジルの人々の暮らしの様子について調べ、日本との相違点や共通点について考える。 ⑤調べたことをまとめ、ブラジルと日本のつながりやこれからの関係のあり方について考える。	【知技】必要な資料や情報を集め、日本との共通点や相違点、つながりについて意識しながら、ブラジルの特色や文化について理解を深めている。 (行) (ノ)

＜選択＞ 豊かな石油資源をもつ国 サウジアラビア P260～265 【配時 3】	日本とサウジアラビアのつながりや人々の生活の様子を調べ、日本との違いやサウジアラビアの特色、人々の暮らしの様子を捉える。	○サウジアラビアについて、本や統計資料などを活用して、さまざまな観点から調べ、日本との相違点・共通点、日本とのつながりについて考える。 ◆サウジアラビアの人々の生活、文化や習慣、国土の特徴、日本とのつながり。異なる文化や習慣をもつ人々と互いに協調していくことの大切さ。	①サウジアラビアについての基本的な情報を地図帳などの資料から確認する。 ②地図帳や統計資料、まちなみの写真などからサウジアラビアの国土の様子や産業について調べる。 ③図書館の本やインターネットなどから、サウジアラビアの人々の文化や宗教的な背景について調べる。 ④サウジアラビアの人々の暮らしの様子について調べ、日本との相違点や共通点について考える。 ⑤調べたことをまとめ、サウジアラビアと日本のつながりやこれからの関係のあり方について考える。	【知技】必要な資料や情報を集め、日本との共通点や相違点、つながりについて意識しながら、サウジアラビアの特色や文化について理解を深めている。(行) (ノ)
＜まとめる＞ P266～267 国際交流について考えよう P268～269 【配時 1】	調べたことを発表し、日本はさまざまな国とつながりをもっていて、世界の国の人々の生活や文化は多様であることを捉え、互いの文化や生活習慣を尊重することの大切さを考え、表現する。	○それぞれが調べたことを発表し合って、学習の成果を共有し、日本との相違点や共通点、日本と外国とのつながりについて理解を深め、国際交流の大切さについて考える。 ◆日本とつながりの深い国々の人々の生活、文化や習慣、国土の特徴、日本とのつながり。異なる文化や習慣を尊重し、互いに協調していくことの大切さ。	①学習問題を確かめる。 ②調べたことを発表し合い、学習成果を共有する。 ③感想や疑問、意見を出し合いながら、世界の国々と日本とのつながりや調べた国々と日本との違いについて考える。 ④国際交流の様子などから、世界の国々の人々とともに暮らす社会に向けて大切だと思うことをノートにまとめる。	【思判表】互いの学習成果を交流し合い、異なる文化や生活習慣を尊重し合い、交流することの大切さを考え、表現している。(発) (ノ) 【態】学習したことや学び方を振り返り、これからの学習に生かそうとしている。(発) (ノ)

小単元 2	地球規模の課題の解決と国際協力	配当時間 7 時間	教科書 6 P272～285
-------	-----------------	-----------	-------------------

目 標

- グローバル化する国際社会における日本の役割について理解するとともに、地図帳や地球儀、統計や年表などの各種資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身につけるようにする。
- 国際社会における日本の役割や地球規模の課題の解決に向けた取り組みの相互の関連や意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
- 国際社会における日本の役割について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、平和を願う日本人として世界の国々の人々とともに生きることの大切さについての自覚を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国際連合の働きや日本の国際協力の様子を理解している。 ・調べたことを図表や文などにまとめ、日本が平和な世界の実現のために重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解している。	・地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、問いを見だし、国際連合の働きや日本の国際協力の意義を考え、表現している。 ・地球規模で発生している課題と日本が行っている協力・援助を関連づけたり、総合したりして、国際社会において日本が果たしている役割を考えたり、学習したことをもとに社会への関わり方を選択・判断したりして、適切に表現している。	・日本の国際社会における役割について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ・学習したことをもとに、世界の人々とともに生きていくために大切なことや、今後、国際社会において果たすべき役割などを多角的に考えようとしている。

小単元名：2 地球規模の課題の解決と国際協力 【配当7時間】

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現

(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
世界で活躍する日本人 P272～275 【配時2】	世界で活躍する日本人の活動に着目して、世界の課題を解決するために、日本人の活動がどのように取り組んでいるかについての学習問題をつくり、学習の見通しを立てる。	○平和や環境を守るために、世界各地で日本人がどのような活動をしているのかを調べ、日本の国際貢献について学習問題をつくり、学習計画を立てる。 ◆人々の健康や生命を守ったり、暮らしを向上させたりするために、日本をはじめ世界各国が協力していること。	①世界で活躍する日本人の活動を調べる。 ②調べたことをもとに、世界で起きている課題について話し合う。 ③世界の平和や環境を守るために、どのような取り組みが行われているのかについて学習問題をつくり、学習計画を立てる。	【思判表】世界で活躍する日本人の活動から、問いを見いだし、学習問題として表現している。(発)(ノ) 【態】学習問題について予想や学習計画を立て主体的に追究しようとしている。(発)(行)(ノ)
学習問題 世界の平和や環境を守る取り組みに、 日本人はどのように関わっているのだろう。				
ユニセフのはたらき P276～277 【配時1】	すべての子どもの命や権利を守るための取り組みを調べ、その重要性や、国際協力の必要性を捉える。	○世界の子どもたちの健康や安全を守るユニセフの働きについて調べる。 ◆ユニセフが、世界の子どもたちの健康や安全を守る活動を行っていること。子どもたちの健康や安全を守るためには、国際協力が必要であること。	①写真や資料から、世界の子どもたちがおかれている状況について調べる。 ②子どもたちの健康と安全を守るユニセフの活動について調べる。 ③ユニセフの役割と自分たちとのつながりについて話し合い、自分たちが協力できることについて考える。	【知技】ユニセフの活動から、子どもたちの健康や安全を守るためには、国際協力が必要であることを捉えている。(発)(ノ)
国際連合のはたらき P278～279 【配時1】	紛争の防止・解決のための取り組みを調べ、その重要性や、国際連合の働き、日本の果たしている役割を捉える。	○世界の人々の平和と安全を守る国際連合の働きについて調べる。 ◆世界の平和と安全を守るためには国際的な協力が必要であり、その中で日本も重要な役割を果たしていること。	①世界で起きている紛争・戦争について調べる。 ②世界の平和を守るための国際連合の活動について調べる。 ③国際連合の働きと日本が果たしている役割について話し合う。	【知技】世界の平和と安全を守るために、国際連合がさまざまな活動に取り組んでいることや、日本が果たしている役割を理解している。(発)(ノ)
地球の環境とともに生きる P280～281 【配時1】	地球環境をめぐるさまざまな問題を調べ、その解決に向けた国際協力の必要性や、持続可能な社会を目指すことの重要性を捉える。	○地球環境を守りながら、持続可能な社会を目指していくために、世界の人々が協力して取り組んでいる事例について調べる。 ◆地球環境を守るためには、世界各国が協力して取り組まなければならないこと。持続可能な社会を目指していくことが必要であること。	①世界で起きている環境問題について調べる。 ②さまざまな環境問題を解決するための取り組みについて調べる。 ③地球環境を守ることの大切さや、自分たちの暮らしとのかかわりについて話し合う。	【知技】環境問題の解決に向けて、世界の人々が協力することが必要であることを捉えている。(発)(ノ)

よりよい社会を ともにひらく P282～284 ＜まとめる＞ P285 【配時 2】	地球規模の諸課題を解決するための取り組みを調べ、誰もが安心していきいきと暮らすことのできる社会の実現に向けて、国際社会の一員として協力することが大切であることを捉える。 また、調べたことをまとめ、地球規模の課題を解決するために大切なことについて考え、表現する。	○現代に残されている課題に目を向けながら、国際社会の一員として何を大切にしていけるべきかを話し合う。 ◆地球規模の諸問題を解決するために、異なる文化をもつ人々と国境をこえてともに助け合う必要があること。	①水不足の問題をはじめとして世界各地で起きている課題について調べる。 ②異なる文化をもつ人々と国境をこえてともに助け合う必要があることをつかむ。 ③国際社会の中で、互いを尊重し合いながら、誰もが安心していきいきと暮らすことのできる社会を実現するためには、何が大切なのか考える。 ④「まとめる」(P285)も活用して、本単元の学習をまとめ、学習を振り返る。	【知技】地球規模で発生している課題の解決に向けて、世界の人々とともに協力していくことが大切であることを理解している。 【思判表】地球規模の課題を解決し、すべての人の人権が尊重され、誰もが安心して生き生きと暮らすことのできる社会の実現に向けて、国際社会の一員として協力することの大切さを考え、表現している。(発)(ノ)(テ)
--	--	---	---	---

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
＜つなげる＞ 世界の人々とともに生きていくために、大切なことを考えよう P286～287 【配時 2】	6年生の社会科の学習を振り返り、世界の人々とともに生きていくために大切なことや、自分たちができることについて考え、表現する。	○6年生の社会科で学習したことで持続可能な開発目標（SDGs）を関連づけながら学習を振り返り、世界の人々とともに生きていくために大切なことや自分たちにできることを話し合う。 ◆持続可能な社会を世界の人々とともにつくっていくためには、一人一人ができることを考え、協力することが大切であること。	①教科書やノートをもとに6年生の社会科で学習したことで、印象に残っていることを発表し合う。 ②学習したことで持続可能な開発目標（SDGs）がつながっていることをつかむ。 ③世界規模の課題を解決し、持続可能な社会をつくっていくために、大切だと思うことを話し合う。 ④持続可能な社会の実現に向けて、自分にできることを考え、発表する。	【思判表】世界規模の課題を解決し、持続可能な社会をつくっていくために大切なことを考え、表現している。(発)(ノ) 【態】社会科の学習で学んだことを、国際社会の一員としてのこれからの自分たちのあり方に生かそうとしている。(発)(行)(ノ)